

看護実践研究センター
令和1・2年度 活動報告書

公立大学法人山形県立保健医療大学

目 次

学長挨拶	1
看護実践研究センター長挨拶	2
I. 令和元年度活動報告	
1. 事業概要	3
2. 地元ナース事業推進部会	4
令和元年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム	5
令和元年度フォローアップ研修	13
令和元年度相互交流研修事業	17
令和元年度「地元ナース事業推進部会」事業評価表	24
令和元年度地元ナース懇談会の概要	32
令和元年度協力病院連携会議の概要	36
3. 特定行為研修部会	41
4. 看護教員養成講習会部会	42
5. 教育力向上部会	43
6. 地域連携推進部会	44
7. 令和元年度看護実践研究センター運営委員名簿	45
II. 令和2年度活動報告	
1. 事業概要	47
2. 地元ナース事業推進部会	48
令和2年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム	49
令和2年度フォローアップ研修	57
令和2年度相互交流研修事業	60
令和2年度クリニックナースの看護 up to date	65

令和2年度Jナースカフェ	68
令和2年度「地元ナース事業推進部会」事業評価表	72
令和2年度地元ナース懇談会の概要	77
令和2年度協力病院連携会議の概要	83
3. 看護教員養成講習会部会	87
4. 教育力向上部会	88
5. 地域連携推進部会	89
6. 令和2年度看護実践研究センター運営委員名簿	90
資料	
・山形県立保健医療大学看護実践研究センター運営要綱	91
・山形県立保健医療大学看護実践研究センター運営規定	94
協力病院・施設、協力病院の位置づけ	96
令和元年度・令和2年度地元ナース懇談会委員名簿	97

令和 02 年度看護実践研究センター活動報告書の発行に際して

山形県立保健医療大学理事長兼学長 前田 邦彦

山形県立保健医療大学看護実践研究センターの事業の遂行につきましては、学内・学外を問わず、多くの皆様のご支援を賜り、ここにあらためて感謝申し上げます。

この看護実践研究センター（以下「本センター」）は、県内の看護職を対象に看護継続教育、研究指導、情報発信等をおこなうことにより、山形県の看護実践水準の向上を図るという目的で、文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の中の「地域での暮らしや看取りまで見据えた看護が提供できる看護師の養成」事業の一つとして「山形発・地元ナース養成プログラム」が採択されたことを契機として、平成 26（2014）年 12 月 1 日に開設されました。当初は「山形発・地元ナース養成プログラム」の実施・運営の中核施設として、同プログラムの遂行・展開を主たる事業としておりましたが、同プログラムについての国からの補助金が平成 30（2018）年度で終了し、令和元（2019）年度からは本学独自の事業として取組むこととなりましたので、それに伴い、本センターの事業を「地元ナース事業」に加えて、「教育力向上事業」「地域連携事業」「特定行為研修調査」「令和 2 年度看護教員養成講習会」に拡げ、対象も小規模病院等に限定せず山形県内の看護職全体に拡大し、今に至っております。

本センターは、山形県の看護実践水準の向上を図るとともに、その成果を全国・世界に発信していくことを目指しております。また、地域の医療福祉の充実に資する大学教育の内容・方法を本学看護学科とともに開発し、同様の地域性を有する看護系大学等の先遣としての役割を果たすことも目的としております。令和 02 年度は、新型コロナ・ウイルスの感染拡大とそれに対する対応ということで、活動に大きな制約を受けた一年でしたが、その中でも、本報告書にありますように、リカレント教育を中心にほぼ例年並みの事業を推進できたのではないかと自己評価いたしております。とくに、「地元ナース養成プログラム」の当初から、当該事業の目的の一つとして、ICT の活用を図るということをあげ、その充実を検討してきましたが、その成果がこのような局面で、早速、活かされた形となっております。さらに、昨年、日本学術会議の健康・生活科学委員会の提言「『地元創成』の実現に向けた看護学と社会との協働の推進」の中にも本センターの活動を取り上げていただきました。

本センターの活動は、本県のような実情を抱えている地域だけではなく、ひろく全国における諸々の保健・医療・福祉の問題に対する解決策の一助にもつながると期待されます。今後、これまでの取り組みを継続していくとともに、その成果をひろく発信し、さらに一層の充実をはかっていきたいと考えております。本センターのさらなる充実のために、本報告書をご一読の上、ご指導・ご鞭撻をいただければ幸甚に存じます。

（令和 03 年 9 月吉日 記）

ご挨拶

● 看護実践研究センターは新しい時代へ

本センターは、文部科学省の課題解決型高度医療人材養成プログラムである「山形発・地元ナース養成プログラム」の実施・運営の中心を担う機関として設立されました。文部科学省の補助金は2018年度で終了しましたが、昨年（2019）度からは大学事業として取組まれています。大学事業となったことに伴い、今までの「地元ナース事業」に加えて、「教育力向上事業」「地域連携事業」「特定行為研修調査」「令和2年度看護教員養成講習会」と、事業を再編・拡大しました。対象も小規模病院等に限定せずに、山形県内の看護職全体に広がっています。

● コンセプトは「看護実践水準の向上」「大学教育との連動」

全国の多くの看護系大学で、看護職の実践能力や研究能力の向上を目指したセンターが設置されていますが、本センターの特色は以下の3点です。①地元ナース事業の経験を生かします。小規模病院や診療所、高齢者・障害者施設等の地元医療福祉に従事している看護職対象の事業に積極的に取り組みます。地元ナースは地域包括ケア時代のフロントランナーであることを発信していきます。②山形県が設置主体である公立大学であることから、山形県からの看護に関する様々な事業を受託します。③本学看護学科の教員全員を本センターの所属としています。それにより、地元医療福祉を強化した大学教育（授業や実習等）をセンター事業と連動させやすい強みを持っています。本センターは、山形県内の看護実践水準の向上を図るとともに、その成果を全国・世界に発信していくことを目指しています。また、地元医療福祉を強化した大学教育の内容・方法を本学看護学科とともに開発し、同様の地域性を有する看護系大学への波及を目指しています。

● コロナ禍におけるセンター事業

今年度は、すべての人々が、日々、新型コロナウイルス感染症への対応に追われました。そのため、センター事業も例年に比べ日程が後ろ倒しになる等の影響を受けましたが、「できることをできるときに」を合言葉に、ほぼ計画通りの内容を行うことができました。とくに今年度は、看護専門学校の教員を養成する10か月間の「看護教員養成講習会（山形県受託事業）」を実施、14名が修了する成果を得ました。新たなコンセプトによる看護教育力向上の取り組みも始まっています。また、コロナ禍において、病院や保健所等のリモート活用環境が一気に進んでおり、新しい時代の到来を実感する年でもありました。

本センターとして、新型コロナウイルス感染症に対する保健医療の第一線に立つ看護職の皆様へエールを送るとともに、本センターの事業への協力に改めて感謝申し上げます。パンデミックはまだ続くと思われませんが、本センターにおいても、山形県内の看護職の皆様と協働しながら、今後を見据えた活動を考えていきたいと思っております。

センター長 菅原 京子（看護学科教授）

I. 令和元年度活動報告

平成 31 年度／令和元年度（2019 年度）看護実践研究センターの概要

目的

県内の看護職を対象に看護継続教育、研究指導、情報発信等を行うことにより、本県における看護実践水準の向上を図る。

看護実践研究センター職員

実践センターに、実践センター長、兼任職員及び必要な職員を置く。

センター長 看護学科長 遠藤恵子

兼任職員 看護学科教員及び事務局職員

看護実践研究センター運営委員会

実践センターの円滑な運営を図るため、実践センターに運営委員会を置く。

実践センターに部会を置くことができる。

平成 31 年度看護実践研究センター運営委員

委員長 看護学科教授 遠藤恵子

副委員長 看護学科教授 菅原京子

委員 看護学科教授 遠藤和子

委員 看護学科教授 後藤順子

委員 看護学科教授 沼澤さとみ

委員 看護学科教授 安保寛明

委員 事務局次長 佐藤敦宏

平成 31 年度看護実践研究センター部会

1. 地元ナース事業推進部会 部会長 菅原京子
2. 特定行為研修部会 部会長 沼澤さとみ
3. 看護教員養成講習会部会 部会長 遠藤和子
4. 教育力向上部会 部会長 安保寛明
5. 地域連携推進部会 部会長 後藤順子

部会名【地元ナース事業推進部会】

委員名 菅原京子 鈴木育子 菊地圭子 高橋直美 齋藤愛依 佐藤志保

○小規模病院等看護職リカレント教育

「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」の履修時間を60時間に編成し直し、9月～11月に開催した。受講者は24名で内7名が全科目を履修し、履修証明書を得た。同プログラムにおけるICT活用については大学のネットワーク更新による効果を期待したが、逆に通信の課題が増した。平成30年度の小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの全科目修了生を対象とした「フォローアップ研修」については、8月～12月に開催し、受講生は1名であった。また「看護 up to date」は最上保健所保健企画課とタイアップし、シミュレーターを用いた高齢者等施設看護職対象の研修会を3月に企画した。33名が参加予定であったが、新型コロナウイルス感染症の関係で中止した。今年度は看護実践研究センターの事業内容再編の関係でリカレント教育日程の周知が遅れた。来年度は早めの周知を図る必要がある。また、保健所との協働を継続する。

○相互交流

大学→病院は9月～10月に教員1名、病院→大学は10月～12月に10施設12名で実施した。病院→大学の内容に実習に関する内容を多く取り入れたためか、参加者は過去最大だった。相互交流のプログラムはニーズに沿った形式をとっているが、来年度はより効果的なプログラムを検討する必要がある。

○J ナースカフェ支援

第1回を令和1年8月1日に開催し、地元ナース事業の再編について説明した。第2回を令和2年3月に計画したが、新型コロナウイルス感染症の関係で中止した。来年度は、小規模病院等看護職の交流を促進する方法をより具体的に検討していきたい。

○協力病院会議、地元ナース懇談会

「協力病院会議」は令和2年2月26日に開催した。協力病院10施設から18名が参加し、今年度事業の実施報告と意見交換を行った。その中で、小規模病院等看護職が学士課程教育で講師を務める意義が語られた。来年度は、新たな協力病院開拓を進める必要がある。外部評価である「地元ナース懇談会」は令和2年2月27日に開催した。今年度採択された文部科学省BP事業の評価委員を基に懇談会委員を編成し、地元ナース事業について外部評価の視点から評価と意見交換を行った。→地元ナース懇談会の評価結果は別紙参照。

○その他：令和2年度以降の小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムについて、文部科学省職業実践力育成プログラム（BP）に申請し12月に認可を得た。

令和元年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの実施結果

1. 開講科目等

科目名	単元数 (ICT 開講単元数)	時間数(時間)
看護の動向と課題	2 (0)	12
根拠に基づく看護	11 (8)	48
地域密着連携	4 (3)	30
看護研究の基礎	4 (2)	30
合計	21 (13)	120

2. 開講日等

開講期間 : 令和元年 10 月 17 日(木) ~ 令和元年 11 月 28 日(木)

開講日数 : 13 日

3. 履修者数

24 名 (小規模病院 24 名)

<内訳>

全科目履修希望者数 7 人 (小規模病院 7 名)

単元履修者数 (令和元年度で全科目を履修した 7 名を除く人数) 17 名

単元受講者の内訳

受講単元数	1	2	3	4~6	7~9	10~12	13 以上
人数	20 人	5 人	6 人	12 人	0 人	2 人	2 人

4. ICT の利用状況

- ・履修者 24 人中、ICT を利用して受講した単元を有する者・・・2 人 (8.3%)
- ・全科目履修者 (7 人中)、ICT を利用して受講した単元を有する者・・・2 人 (28.6%)
- ・上記 2 人中の ICT を利用単元数・・・7 単元/16 単元 (18.8%)
- ・単元履修者 17 人の ICT を利用単元数・・・0 単元
- ・単元履修者数 17 人中、ICT のみを利用した履修者・・・0 人

5. 履修証明書の交付について

全科目履修者 7 名について、看護学科教員会議に諮り、修了についての審議を行い修了と認定し履修証明書を交付した。

*本ブラッシュアッププログラムは、学校教育法第 105 条に基づく「履修証明プログラム」として実施しており、60 時間の講習を受講し、修了要件を満たした者には、本学から同法に基づく「履修証明書」が交付される。

6. 満足度・理解度等について

各講義終了後に回収した Minute Paper から、講義への取り組み、講義内容の理解度、講義の満足度を分析した結果、次のようなことがうかがえた。(別添の表を参照のこと。)

1) 講義への取り組みについて

【講義への参加度】

- ・大学での受講者において、「参加できた」「どちらかといえば出来た」で 100%だった。
- ・ICT 利用の受講者において、「参加できた」「どちらかといえば出来た」は 99.0%で、「どちらかといえば出来ない」が 1%で昨年度の 9.3%に比して大幅に減少していた。

【内容の理解度】

- ・大学での受講者において、「理解できた」「どちらかといえば出来た」が 100%であった。
- ・ICT 利用の受講者において、「理解できた」「どちらかといえば出来た」が 98.1%であった。「どちらかといえば出来なかった」は 1.9%で、昨年度の 9.8%に比して大幅に減少していた。

【講義の満足度】

- ・大学での受講者において、「満足できた」「どちらかといえば出来た」は 100%であった。
- ・ICT 利用の受講者において、「満足できた」「どちらかといえば出来た」が 99.0%であった。「どちらかといえば満足できなかった」が 1.0%で、昨年度の 11.8%に比して大幅に減少していた。

⇒ ICT 利用での受講者における参加度、理解度、満足度ともに、大学での受講者とほぼ同じような結果であった。過去に受講した受講生より、「年度を重ねるたび改善し良くなっている。(特に音声)。」との感想があり、初めての受講生からも、「音声も良く、画面も見やすくとても良かった。大学での演習の様子もよくわかった。会場とディスカッションできることは素晴らしい。」との声があった。改善の取り組みが効を奏したと考える。

7. 課題

- ・ICT 活用におけるネットワークトラブル対策と参加度、理解度、満足度等の向上
- ・履修者(特に全科目履修者)、参加施設の増加対策

8. 今後の検討事項

- ・ネットワークトラブルを回避する対策として、今年度同様の開講前のデモンストレーションの実施(実施時期・内容の見直しを含め)を検討する。
- ・システムや周辺機器をより有効に活用し、より良い状態で配信できるような技術を習得する。

R1年度ブラッシュアッププログラムMinute Paperの集計結果

単位 上段:人
下段:%

【講義への参加度】 4:参加できた 3:どちらかと言えよできた 2:どちらかと言えよできない 1:参加できなかった

	大学で受講					ICTで受講					計				
	4	3	2	1	他	4	3	2	1	他	4	3	2	1	他
看護の動向と傾向	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	0	0	0
	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0
根拠に基づく看護	71	6	1	0	0	0	0	0	0	0	71	6	1	0	0
	91.1	7.7	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	91.1	7.7	1.2	0.0	0.0
地域密着連携	41	4	0	0	0	4	1	1	0	0	45	5	1	0	0
	91.1	8.9	0.0	0.0	0.0	66.8	16.6	16.6	0.0	0.0	83.3	9.8	1.9	0.0	0.0
看護研究の基礎	40	17	0	0	0	0	1	0	0	0	40	18	0	0	0
	70.2	29.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	68.9	29.3	0.0	0.0	0.0
計	159	28	1	0	0	4	2	1	0	0	163	30	2	0	0
	83.7	15.8	0.5	0.0	0.0	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0	83.6	15.4	1.0	0.0	0.0

【内容の理解度】 4:理解できた 3:どちらかと言えよできた 2:どちらかと言えよできない 1:理解できなかった

	大学で受講					ICTで受講					計				
	4	3	2	1	他	4	3	2	1	他	4	3	2	1	他
看護の動向と傾向	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	5	3	0	0	0
	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	61.5	23.1	0.0	0.0	15.4
根拠に基づく看護	75	3	0	0	0	0	0	0	0	0	75	3	0	0	0
	96.2	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	85.0	14.5	0.0	0.0	0.0
地域密着連携	41	4	0	0	0	4	2	0	0	0	45	6	0	0	0
	90.6	9.4	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	73.7	26.3	0.0	0.0	0.0
看護研究の基礎	39	17	1	0	0	0	0	1	0	0	39	17	2	0	0
	57.1	38.8	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	67.3	29.3	3.4	0.0	0.0
計	160	27	1	0	0	4	2	1	0	0	164	29	2	0	0
	85.1	14.4	0.5	0.0	0.0	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0	84.1	14.9	1.0	0.0	0.0

【講義の満足度】 4:満足できた 3:どちらかと言えよできた 2:どちらかと言えよできない 1:満足できなかった

	大学で受講					ICTで受講					計				
	4	3	2	1	他	4	3	2	1	他	4	3	2	1	他
看護の動向と傾向	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	0	0	0
	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	53.8	46.2	0.0	0.0	0.0
根拠に基づく看護	71	6	1	0	0	0	0	0	0	0	71	6	1	0	0
	91.0	7.7	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	86.1	12.8	1.1	0.0	0.0
地域密着連携	39	6	0	0	0	4	2	0	0	0	43	8	0	0	0
	86.7	13.3	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	84.3	15.7	0.0	0.0	0.0
看護研究の基礎	41	15	1	0	0	0	0	1	0	0	41	15	2	0	0
	59.2	36.7	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	56.1	40.9	3.0	0.0	0.0
計	158	28	2	0	0	4	2	1	0	0	162	30	3	0	0
	84.0	14.9	1.1	0.0	0.0	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0	83.1	15.4	1.5	0.0	0.0

* 各科目の受講者数は単元ごとの受講者の合計である。

令和元年度 履修証明プログラム

小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム
受講生募集要項



公立大学法人山形県立保健医療大学

看護実践研究センター 地元ナース事業推進部会

■ 履修証明プログラムとは

履修証明プログラムとは、社会人等の者を対象に大学等が、一定のまとまりのある学習プログラムを提供するプログラムです。プログラムを受講し修了要件を満たした者には、大学から学校教育法に基づく履修証明書を交付することができることとなっています。

本学では、履修証明プログラムとして、「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」を実施しています。

■ 小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムとは

本学が独自に山形県内の小規模病院・診療所、高齢者施設等に勤務する看護職を対象に行うプログラムです。

小規模病院等の看護職の方々が地元の医療福祉の担い手としての役割を再認識し、発展的な看護を実践する能力の向上を図ることを目的としています。

1 出願要件

大学入学資格を有する者又はこれと同等以上の学力を有すると認められる者で、次の要件のいずれかに該当する者としてします。

- ① 病床数が原則として200床未満の病院に勤務する看護師、保健師、助産師
- ② 有床又は無床の診療所に勤務する看護師、保健師、助産師
- ③ 高齢者施設又は障がい者施設に勤務する看護師、保健師、助産師
- ④ 訪問看護ステーション又は在宅ケア関連機関に勤務する看護師、保健師、助産師

*上記の要件に該当しない場合でも、学長が認めた場合は受講が可能の場合がありますのでご相談ください。

2 募集定員

20名程度

*応募者が定員を上回った場合は、選抜を行う場合があります。

3 出願受付期間

令和元年9月12日(木) ～ 令和元年9月30日(月)

4 受講料

無料

5 出願書類

- ①履修証明プログラム受講願書兼履修者登録票(写真貼付)

記入方法は別紙をご参照ください。ご不明な点はお問い合わせください。

- ②受講単元申込書

6 出願方法

願書を提出する場合は、簡易書留とし、封筒の表に「ブラッシュアッププログラム願書在中」と朱書きし郵送してください。令和元年9月30日（月）必着です。

7 履修許可証の送付について

出願書類受領後、随時送付します。

8 履修証明書の交付

連続する2年以内に、カリキュラムの中から合計60時間以上を履修し、修了と判定された者に履修証明書を交付します。

令和元年4月より、履修時間が120時間から60時間に変更になりました。

◆ プログラムの概要

1 名称

小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム

2 受講期間

令和元年10月17日（木）～令和元年11月28日（木）

*開講式及びオリエンテーションは、講習会初日（10月17日）10時から行います。

*閉講式は最終日（11月28日）の講習終了後に行います。

3 受講の方法

① 履修証明書の取得を目的としない方は、いくつか単元を選択して受講することも可能です。

② 科目の単元によっては、講座開講時間帯に一定の条件を備えたパソコンでICTを活用して、勤務先でも受講できます。なお、ネット環境によっては、十分に受講できない場合もありますので、詳細はお問い合わせください。

*ICT（Information and Communication Technology）とは情報通信技術の総称です。

4 授業時間帯

1時限	10：30 ～ 12：00
2時限	13：00 ～ 14：30
3時限	14：40 ～ 16：10
4時限	16：20 ～ 17：50

* 最終日（11月28日）のみ、4時限までの授業時間になります。

5 カリキュラム

ブラッシュアッププログラムは、次の4つの科目で構成されています。

科目名	単元名	授業時間・担当講師名	開講日	ICT
看護の動向と課題	・看護の動向と課題	①～③ 菅原京子・佐藤志保	10月17日(木)	可
地域密着連携	・地域医療連携の概要	①菅原京子・佐藤志保	10月23日(水)	可
	・チーム医療・医師の立場から	②前田邦彦		可
	// リハビリ職の立場から	③高橋俊章		可
	// MSWの立場から	①山形大学医学部附属病院 五十嵐恵美	10月25日(金)	/
	・地域包括ケアシステムの現状と課題	②南沼原包括支援センター 東海林かおり		/
		③高橋直美・佐藤志保		/
・連携のための基本的なスキル	①～③Present time 代表 塩野貴美	10月30日(水)	/	
根拠に基づく看護	・摂食・嚥下困難を抱える患者の看護	①～③山形済生病院 梁瀬文子	11月1日(金)	/
	・皮膚ケアの看護	①～③山形大学医学部看護学科 片岡ひとみ	11月6日(水)	/
	・生活習慣病を抱える患者の看護	①～③佐藤志保	11月8日(金)	/
	・急変時の看護	①～③山形県立中央病院 峯田雅寛	11月12日(火)	/
	・終末期にある患者の看護 ※本学学部生との合同授業	①東北文教大学短期大学部 橋本美香	11月14日(木)	/
		②訪問看護アソシアやまがた 佐藤美香		/
③高橋直美		/		
看護研究の基礎	・看護研究の進め方	①～③佐藤志保	11月19日(火)	/
	・量的研究	①～③斎藤愛依	11月21日(木)	可
	・質的研究	①②今野浩之	11月25日(月)	可
	・倫理的配慮	③遠藤恵子		可
	・研究計画の作成方法	①菊地圭子	11月28日(木)	可
	・研究計画書の作成と発表	②～④ 菅原京子・鈴木育子・佐藤志保		/

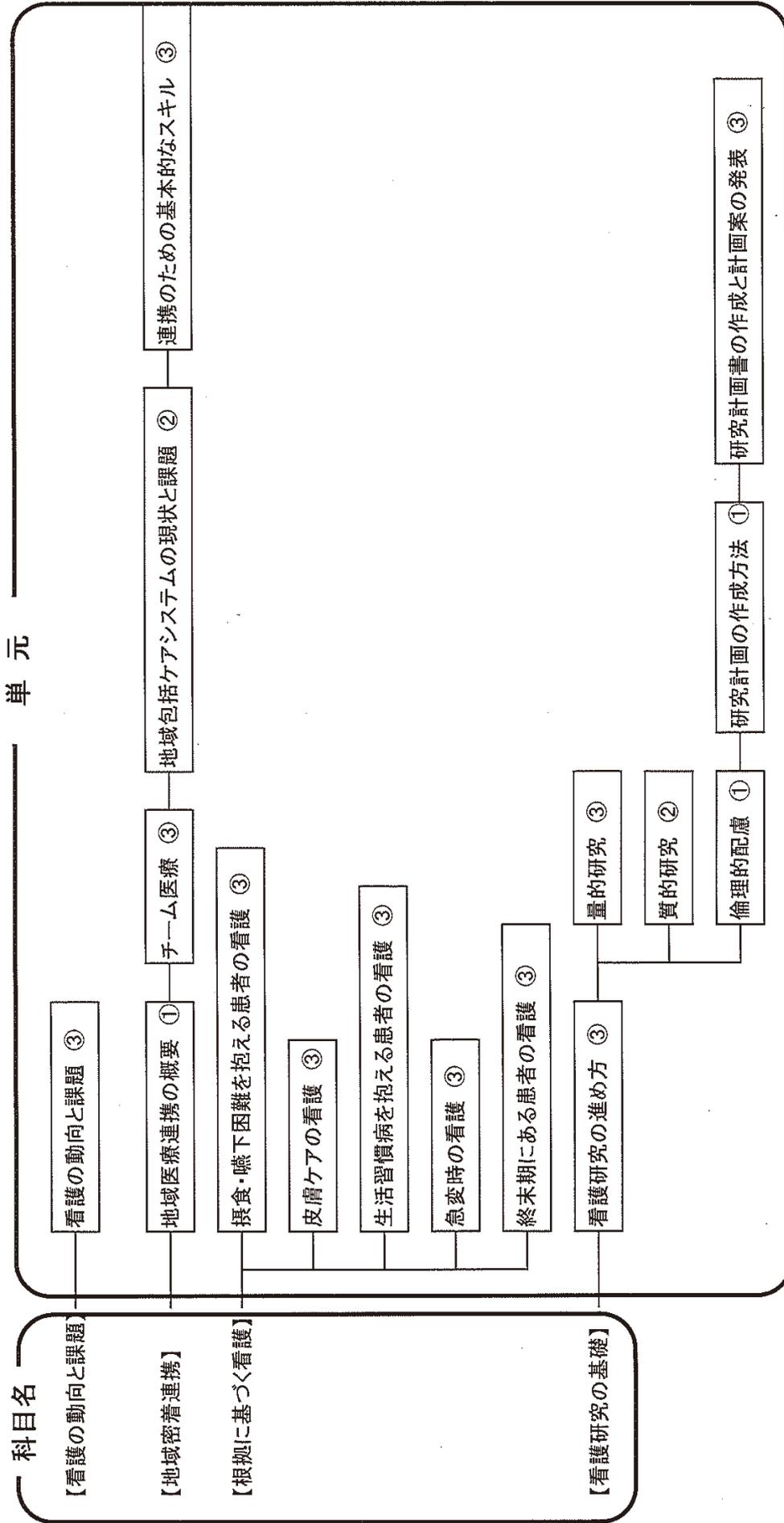
網掛け：本学教員

- * 授業時間の表記…①10:30-12:00 ②13:00-14:30 ③14:40-16:10 ④16:20-17:50
- * ICT欄に「可」と記載されている科目は、インターネットでの受講が可能です。
- * プログラムの内容およびカリキュラムツリーは、山形県立保健医療大学 看護実践研究センターのホームページ (<http://www.yachts.ac.jp/>) にも掲載しています。

■ 願書の請求・提出先及び問い合わせ先

公立大学法人山形県立保健医療大学 看護実践研究センター
〒990-2212 山形県山形市上柳 260 番地
☎：023-686-6614 fax：023-686-6675
E-mail：ns-cent@yachts.ac.jp

小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム カリキュラムツリー



* ○内の数字は、講習回数。
 1回の講習は90分
 合計 40回(60時間)

令和元年度 フォローアップ研修実施報告

研修生:平成30年度履修証明修了生1名

1. 指導力スキルアップ研修 (8月6日～10月1日)

概要:「根拠に基づく看護」をテーマとした研修会の企画と実施・評価

研修生の施設の看護師を対象としたフィジカルアセスメントを振り返る研修会を、フィジコを使用し行った。

○研修生の感想や意見など

- ・準備をしっかり行い、練習もして実践に臨んだが、一方的な研修になってしまったような気がした。
- ・様々な病院から集まってきていたので、もっと情報交換を行う時間を取ればよかったと思った。
- ・研修会を開くにあたり、自身の担当の領域について勉強したので、自分の学びにも繋がった。教えることは、自分も学ぶ機会になるので良い体験になった。
- ・準備した資料を読むことが多く、もっと現場の経験を話しながらできると良かった。人に伝えることは難しいと、つくづく感じた。
- ・研修会を企画から実施まで行うことで、学ぶことが多くあった。メンバー全員で作上げた研修となり、とても有意義なものとなった。

2. 看護研究ステップアップ研修 (6月6日～10月31日)

概要:研究計画書を作成し、計画に基づき、研究を実施しまとめた。最終日に、各自それぞれがまとめたものを発表し、意見交換を行った。

○研修生の感想や意見など

- ・ブラッシュアッププログラムで作成した研究計画を引き続き取り組み、実際に進めることが出来た。時間がなくて大変だったが、なんとかやることができ、苦手意識がやわらいだ。
- ・自分の知りたかったことについて、実際に研究に取り組むことができ、苦しさもあったが楽しさを感じる事ができた。
- ・実際に研究をやってみて、少し自信がついたような気がする。

3. 地元医療連携ステップアップ研修 (12月11日)

概要:相互理解連携論の「連携をすすめる上で必要なスキル1」の講義・演習に参加し、コミュニケーション・ファシリテーションについて学んだ。

○研修生の感想や意見など

- ・看護師としての職業を深く考える機会がなかったが、講義の中で学生さんの意見をたくさん聞き、自分の看護師としての職業観を深めることが出来た。

- ・今、現場に入って仕事をする中で、忘れがちになっている看護の原点をもう一度考え直す機会になった。
- ・患者や対象の思いを引き出す話の聞き方や、話の仕方を再学習できた。今後の実践の活かしていきたい。
- ・長年仕事を行っていると馴れ合いや自己流などになっているところがあるので、初心に戻り、患者の視線に立った看護、医療の提供を行うことに留意したいと思った。
- ・コーチングの講義の時は、学生さんと“聴く”ワークができたことがとても良かった。
- ・患者さんの反応の変化を見逃さないよう荷、普段からコミュニケーション技術を高める努力をして、観察力を伸ばしていきたい。

看護実践研究センター 令和元年度 フォローアップ研修

I 開講目的

- ・小規模病院等で展開する看護学実習やスタッフ教育を実施できる企画力と調整力を養う。
- ・小規模病院等における看護学生や新人看護師・スタッフへの指導力を培う。
- ・発展的な看護を実践する能力の向上を図る。

II 対象者

平成 30 年度履修証明プログラム（ブラッシュアッププログラム）修了生

III 研修開催期間

令和元年 8 月～12 月

IV 会場

山形県立保健医療大学

V 研修内容・学習方法について

1. 指導力スキルアップ研修

学習内容：根拠に基づく看護をテーマとした研修会の企画・実施・評価。

学習方法：演習を通して研修会の企画のプロセスを展開、実践する。

2. 看護研究ステップアップ研修

学習内容：研究計画書の作成、研究方法の実践、研究のまとめと発表。

学習方法：演習を通して看護研究のプロセスを展開、実践する。

3. 地元医療連携ステップアップ研修

学習内容：連携をすすめる上で必要なスキル（ファシリテーション等）。

学習方法：学部学生の講義や演習に参加し、ファシリテーターを体験する。

VI 研修スケジュール

月日/時限	1 限	2 限	3 限	4 限
8/6 (火)		看護研究ステップアップ 研究計画作成	看護研究ステップアップ 研究計画作成	指導力スキルアップ 研修会企画
8/28 (水)		看護研究ステップアップ 調査準備	看護研究ステップアップ 調査準備	指導力スキルアップ 研修会企画
9/11 (水)		看護研究ステップアップ 調査実施	看護研究ステップアップ 調査実施	指導力スキルアップ 研修会実施
9/25 (水)		指導力スキルアップ 研修会実施	指導力スキルアップ 研修会実施	指導力スキルアップ 研修会実施
10/9 (水)		看護研究ステップアップ 分析	看護研究ステップアップ 分析	看護研究ステップアップ 分析
10/30 (水)		看護研究ステップアップ まとめ	看護研究ステップアップ まとめ	看護研究ステップアップ まとめ
11/13 (水)		看護研究ステップアップ 発表会準備	看護研究ステップアップ 発表会	看護研究ステップアップ 講評・他
12/10 (火)	地元医療連携ステップアップ			

*看護研究ステップアップの内容については、各自の進捗状況によって異なるので目安です。

VII 時間割

- ・ 1 限 : 8 : 50 ~ 10 : 20 ・ 2 限 : 10 : 30 ~ 12 : 00
- ・ 3 限 : 13 : 00 ~ 14 : 30 ・ 4 限 : 14 : 40 ~ 16 : 10

令和元年度相互交流事業の実施結果

1 相互交流事業の目的

小規模病院等の看護師と本学看護学科教員の相互交流を通して、お互いの業務の相互理解と教育力の向上を図る。

2 交流実施日程等

(1) 大学 ⇒ 病院

1名（助教）

公立高島病院へ 9月17日・25日、10月2日～4日（5日間）

<研修内容>

日程		項目	内容
1日目	午前	オリエンテーション、	院内案内、高島病院の概要、教育体制の説明
	午後	研修の企画	・新人教育担当看護師と、新人看護師を対象としたフィジカルアセスメントの研修を企画する。 研修の企画・方法についての説明。
2日目	午前	新人指導の実際	・病棟における新人の指導者の関わり等、現場の実際を学ぶ。 一般病棟の概要。ケアの実際。入院受入。転入。対応。シャドウイング。
	午後	研修の企画	1日目の続きを行う
3日目	午前	新人指導の実際	・病棟における新人への指導者の関わり等、現場の実際を学ぶ。 包括ケア病棟の概要。カンファレンス。転入対応。ケアの実際。シャドウイング。
	午後	研修の企画	・研修のデモンストレーション。研修当日に向け、修正を行っていく。
4日目	午前	研修会の実施	・研修会準備・最終調整。
	午後		・企画した研修の実施。
5日目	午前	卒後2～4年目看護師との座談会	・卒後2～4年目看護師と実地指導者との座談会。新人看護師を経て高島病院に就職しての今を振り返る。 卒後地元ナースとして働いての感想。ブラッシュアッププログラム受講経験者の現場で活かしていること。 今指導者として頑張りたいこと。
	午後	相互交流の振り返り	・新人研修卒後6か月フォローアップ開催。 認知症看護研修。 ・相互研修5日間を通じての振り返り。

(2) 病院 ⇒ 大学

10 病院から 12 名

日程	病院数	協力病院
10 月 10 日	10	最上町立最上病院、川西湖山病院、公立高島病院、みゆき会病院、小国町立病院、尾花沢病院、寒河江市立病院、町立真室川病院、順仁堂遊佐病院、矢吹病院
10 月 24 日	5	公立高島病院、みゆき会病院、小国町立病院、尾花沢病院、矢吹病院
10 月 31 日	5	最上町立最上病院、川西湖山病院、小国町立病院、寒河江市立病院、町立真室川病院、
11 月 6 日	9	最上町立最上病院、川西湖山病院、公立高島病院、みゆき会病院、小国町立病院、尾花沢病院、寒河江市立病院、町立真室川病院、順仁堂遊佐病院
11 月 27 日	3	最上町立最上病院、公立高島病院、矢吹病院
11 月 28 日	3	最上町立最上病院、寒河江市立病院、町立真室川病院
12 月 10 日	8	最上町立最上病院、川西湖山病院、公立高島病院、みゆき会病院、小国町立病院、尾花沢病院、寒河江市立病院、町立真室川病院

<研修内容>

日程	1 限	2 限	3 限	4 限
10 月 10 日		オリエンテーション	大学の施設見学・シミュレーター・病院紹介	
10 月 24 日		看護人間関係論	振り返り・意見交換「相互交流に期待するもの」	
10 月 31 日		看護人間関係論	授業担当教員と振り返り	
11 月 6 日		実習の位置付け・組み立て・受け入れ		
			実習オリエンテーション	
11 月 27 日	基礎看護学実習 I			
11 月 28 日	基礎看護学実習 I			
12 月 10 日	相互理解連携論			

*実習オリエンテーションは、実習参加者に対し、担当教員より基礎看護学実習 I の目的や目標、スケジュール、注意事項、施設の説明等を行った。

3 相互交流者の主な感想・意見

【大学 ⇒ 病院】

<研修成果・所見>

・今年度は新卒看護師の入職者が多いとのことで、教育担当者が新人教育に携わっている様子を見ることができた。また、各病棟においてリカレント教育修了生で新人教育を行った経験のある方々から、リカレント教育をどのように活用しているか、役立っている点などについて話を聞くことができた。リカレント教育の履修証明プログラムが、文科省の意向で時間が短縮されたが、時間的に参加しやすくなった一方で、実施されなくなった単元もあり残念に思っている様子があった。今後、意見交換をもち、縮小された部分について補完できるよう、検討課題として持ち帰ることとする。

＜研修に対する意見・要望等＞

・新人教育の実施状況について、指導者側から、また、新人看護師側からと両方から知ることが出来るように、日程や内容を調整していただき、充実した総合交流を行うことができた。多忙な中、ご配慮いただき、感謝申し上げます。

【病院 ⇒ 大学】

＜研修成果・所見＞

・今の学生は、知識・技術を得るための学習内容や設備に恵まれていると感じた。
・大学の講義やグループワークを通して、学生が受講する講義を理解することができた。
・実習のテーマが明確で、受け入れる人数が少数であれば、小規模病院でも実習の受け入れは可能であること。押して、受け入れる病院側のスタッフも刺激を受け、指導することで看護実践を熟考したり、自信につながるとの報告があり、参考になった。
・時代や世代によって、看護や知識も変化しており、学び直しの重要性を感じた。

＜研修に対する意見・要望等＞

・大学と小規模病院の交流のみならず、病院間の交流もあり、同じような課題に直面していることや、その中でどのような工夫をしているのか具体的な情報交換ができたこともよかった。
・教員との意見交換を通して、自施設の特徴をふまえ、実習の受け入れに関する課題や新たな実習の展望、自施設における人材育成の課題や展望を検討することができた。

4 総括及び今後の課題

今年度の【大学 ⇒ 病院】については、前年度と同様に5日間の日程で1名の教員が行った。補助事業中に行ったりカレント教育が、現場においてどのように活用されているのか、リカレント教育修了生が実際に新人教育を行っている様子など、直接見たり話を聞くことができた。今後、リカレント教育を充実していくために、内容をどのように充実させ、整えていくか、大変参考になる貴重な経験をした。

今年度の【病院 ⇒ 大学】については、10月～12月の期間に5コース（全7日間）を設定し、病院側が複数のコースを選択して実施できるようにして相互交流を行った。参加施設は10病院で、各施設から1～2名参加した。その結果、各コースには複数名の研修者がいた。オリエンテーションのみの日程を設け、相互交流の研修者が全員集まり、相互交流のオリエンテーションのみならず交流する時間をもつことが出来た。

今年度も、研修内容の中に、実習や講義の組み立てについての講義・演習を入れた。また、補助事業期間中に実際に実習を受け入れた経験を聞き、どのように日程調整や内容の組み立てを行ったか等、詳しく聞くことができた。その後、自施設で実習を受け入れるとしたらどのようなことができるか、プログラムを作成する演習を行った。研修を通し実習の具体的な組み立てを理解することにより、自施設で実習を受け入れる際のイメージ作りに繋がったと考える。

今年度は、これまでで一番多くの研修者が相互交流に参加されたことで、同じような規模の病院ならではの課題等について多岐にわたって情報交換ができていた。

実習への参加希望が多かったが、大学側の事情により、全員の希望を叶えることができなかった。次年度は希望に応えられるような形で相互交流が行うことができるよう検討したい。

「地元ナース事業推進部会」令和元年度相互交流実施要領

1 目的

小規模病院等の看護師と本学看護学科教員の相互交流を通して、お互いの業務の相互理解と教育力の向上を図る。

2 対象施設

協力病院 11 施設

(小国町立病院、川西湖山病院、公立高島病院、最上町立最上病院、尾花沢病院、町立真室川病院、順仁堂遊佐病院、県立こころの医療センター、みゆき会病院、矢吹病院、寒河江市立病院)

3 対象者

指導者としてふさわしい人材

4 研修の内容等

受講可能な講義・演習や実習棟を設定し、研修者の希望により選択できる。あわせて、学生の実習の受け入れを検討している施設に向けての科目を設ける。

* 詳細は別紙「令和元年度相互交流研修日程」および「相互交流における到達目標について（病院→大学）」を参照のこと。

5 研修時間

原則 10：00～16：30 研修内容により多少の時間の変更がある。

6 相互交流に係る主な要件

- ・ 短期間の研修なので身分はそのままとする。
- ・ 研修場所までの交通費や宿泊費については、病院看護師は病院側で対応する。
- ・ 傷害保険などに加入していること。

7 研修報告

研修終了後に「相互交流報告書」を提出する。

大学の講義に参加した研修者は講義ごとにミニッツペーパーを提出する。

8 その他

学内での研修者の待機・休憩場所等については、看護実践研究センター地元ナース事業推進部会担当者が調整する。

9 覚書の締結

研修の実施に当たっては「職員研修に係る覚書」を締結する。

令和元年度相互交流 研修日程

I 日程と内容

		日 程	内 容
学内	必須	10月10日(木)	オリエンテーション・学内施設案内*1
学内	複数 選択可	10月24日(木)	学内：講義（看護人間関係論）
学内		10月31日(木)	学内：講義（看護人間関係論）
学内		11月6日(水)	小規模病院での看護学実習の受け入れの実際*2
学内		12月10日(火)	学内：講義・演習(相互理解連携論)
実習	1回	11月27日(水)	基礎看護学実習Ⅰ（尾花沢病院）
実習	選択	11月28日(木)	基礎看護学実習Ⅰ（尾花沢病院） *3

*1： 相互交流のオリエンテーションを10月10日（木）に行います。研修者は、オリエンテーションに出席してください。

*2： 大学教育における実習の位置づけや組み立て等について理解し、実際に実習を受け入れた経験のある小規模病院等の実習担当看護師より受け入れの実際について情報を得ることを目的としています。

*3： 1年生の**基礎看護学実習Ⅰ**での見学研修を通して、自施設で実習を受け入れる際、どのように学生の学習環境を整えるとよいのか、教員が事前にどのような準備を行い実習に臨んでいるのか、等について学びます。

研修者の受け入れについて、人数制限があります。希望者が制限数を超えた場合は、日程を変更して頂く場合があります。

研修者が実習に参加できるのは**1回のみ**です。

学生の実習施設は、尾花沢病院になります。

記載されている研修の開始時間は、学内での研修と**異なります**。

II 各研修の具体的内容

日程（学内）	1 限	2 限	3 限	4 限
10 月 10 日（木）		オリエンテーション	大学の施設見学	演習
		菅原京子	佐藤志保	佐藤志保
10 月 24 日（木）		看護人間関係論	授業の振り返り	演習
		寺島美紀子		佐藤志保
10 月 31 日（木）		看護人間関係論	授業の振り返り	演習
		寺島美紀子		佐藤志保
11 月 6 日（水）		実習の位置付け 組み立て	実習受け入れの経験	演習
		菅原京子	小規模病院等 看護師	菅原京子 佐藤志保
12 月 10 日（火）	相互理解連携論			
	外部講師・佐藤志保			

日程（実習）	内容/担当
11 月 27 日（水）	基礎看護学実習 I
	南雲美代子
11 月 28 日（木）	基礎看護学実習 I
	南雲美代子

* 上記の時間割は学内の時間割で下記の時間帯となっています。

- 1 限： 8：50～10：20
- 2 限： 10：30～12：00
- 3 限： 13：00～14：30
- 4 限： 14：40～16：10

令和元年8月1日(木)開催

令和元年 第1回Jナースカフェ アンケート結果

参加者7名/回収7名(100%)

1. Jナースカフェ参加回数：1回…6名、2回…1名
2. 日程について
 - 1) 開催を希望する曜日
金曜が1番多く、次は平日ならいつでも可
 - 2) 開始時間について
午前だと10時ごろ
午後から希望の意見もあり、その場合は13時～13時半
3. ご意見・ご質問など
 - ・意見交換が出来、貴重な時間でした。
 - ・今後のプログラムの概要が分かったので、よかった。今後も継続してほしい。
 - ・ほかの病院の方との交流という目的で参加したので、楽しかった。
 - ・様々な意見が聞けて良かった。
 - ・組織の中で、みんな色々なことに悩み苦しみながら頑張っている様子を見て刺激になりました。
4. Jナースカフェで企画してほしいこと
 - ・地域や地元(山形に)働いてもらう、長く就職してもらうために各病院で意識していることを皆さんから聞きたい。

令和元年度「地元ナース事業推進部会」事業評価表

(S:計画を上回って実施している A:計画を十分に実施している B:計画を十分に実施していない C:計画を実施していない)

【リカレント教育】

計 画	実 施 状 況	成果と今後の課題	自己 評価	外部 評価
<p>【小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小規模病院等の看護職を対象とした「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」を開講する(10月～11月) ○令和2年度のブラッシュアッププログラム案内を送付する(4月予定) <p>【フォローアップ研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ブラッシュアッププログラム修了生にフォローアップ研修案内送付(7月) ○前年度に「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」を修了した者を対象とした「フォローアップ研修」を実施する(8月～12月) 	<p>履修証明プログラム制度の改正に伴い、履修時間の規定が120時間から60時間に半減になったことを踏まえて、今年度はプログラムの内容および構成を見直した。</p> <p>本プログラム対象施設1,012箇所に関講案内を送付したところ、11施設から24名の受講の申し込みがあった。その内、7名が全科目履修を希望し、履修修了後に履修証明書を交付した。その他の17名は、希望する単元を受講する単元履修で受講した。</p>	<p>成果：新規の小規模病院等から受講の申し込みがあり、本プログラムの認知が広まっていると評価している。受講者数は例年よりも少なかつたが、全科目履修修了生はほぼ同数を輩出している。また、本プログラムは学びの機会のみならず、受講生同士の交流や情報交換の場としての役割も果たしており、相乗効果をもたらしていると評価している。</p> <p>課題：今年度プログラム時間を半減したこと、開講案内の時期が開催時期に直近であったことなどから、例年に比べて受講生数の減少誘因につながったと考えられる。</p> <p>課題への取組方針：新たなプログラム内容や構成が小規模病院等の看護職のニーズに沿っているかを検討し、再構築を図る。また、開催案内を早期に実施し、所属施設内の業務調整等による受講のしやすさにつなげる。</p>	A	A
<p>【フォローアップ研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ブラッシュアッププログラム修了生にフォローアップ研修案内送付(7月) ○前年度に「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」を修了した者を対象とした「フォローアップ研修」を実施する(8月～12月) 	<p>7月に、昨年度のブラッシュアッププログラム履修証明書を交付した8名に対し、フォローアップ研修の案内を送付した。</p> <p>対象者8名中、1名からフォローアップ研修の申し込みがあった。指導カスキルアップ研修では、研修生の施設において、フィジカル</p>	<p>成果：修了生1名の参加であったが、企画した内容でのフォローアップ研修を行うことが出来た。</p> <p>課題：今年度よりブラッシュアッププログラムの内容や構成を見直したため、これまでのフォローアップ研修(主に指導カスキルアップ研修)</p>		

<p>【看護 up to date 研修】 ○診療所の看護職向けの研修会を実施する。(3月)</p>	<p>アセスメントの研修会を企画し、企画書の作成、広報、評価まで実施した。看護研究スキルアップ研修では、研究計画書を作成し、アンケート調査実施、回収、集計まで行った。地元医療連携ステツップアップ研修では、学部2年生の「相互理解連携論」を受講し、連携のためのスキルを学生と交流しつつ学びを深めた。</p> <p>3月下旬、診療所の看護職向けの研修会「診療所における生活習慣病を抱える患者への療養支援」を開催する予定であったが、新型コロナウイルスのため中止とした。</p>	<p>の内容や構成を見直す必要がある。 課題への取組方針：連携協力病院会議で、フォロアップ研修の内容について検討し、得られた意見もふまえ、内容や構成の修正を行う。</p>	
--	--	---	--

【ICT活用】

計 画	実 施 状 況	成果と今後の課題	自己評価	外部評価
<p>○リカレント教育においてICTを活用する。</p>	<p>令和元年度の小規模病院等看護ブラツシユアッププログラム全16単元の内、ICTでの受講可能な単元は7単元あった。 今年度のICTを利用して受講した者は延べ3名であった。 通信状況が悪く、十分な活用はできなかった。</p>	<p>成果：学内の機材と接続を使用して、無料のオンラインビデオ会議システムを利用し、双方向性の授業を行った。 課題：接続状況が不安定で、音声や映像の途切れる時があった。DVDの音声が届かない時があった。 課題への取組方針：既存学内システムの活用及び既存システムでは解決できない部分の解明が急務である。</p>	B	B

【相互交流】

計 画	実 施 状 況	成 果 と 今 後 の 課 題	自 己 評 価	外 部 評 価
<p>○大学教員と小規模病院等の看護職との相互交流を行う。(10月～12月)</p>	<p>今年度相互交流を実施する10病院(「大学から病院へ」が1病院、「病院から大学へ」が10病院)と、それぞれ「職員研修に係る覚書」を取り交わした。「大学から病院へ」は5日間の日程で、9～10月に公立高島病院に教員1名を派遣した。「病院から大学へ」は、相互交流参加者の顔合わせも兼ね、10月に全員集合しオリエンテーションを行った。その後、各参加者がそれぞれ希望した日程で参加した。日程は、大学の講義や演習3日間と、病院における看護学実習の見学2日間で構成した。(尾花沢病院、参加者6名)また、自施設の特徴を捉え、自施設における看護学実習の組み立てを検討する演習を行った。病院実習への参加者には、看護学実習担当者が実習の組み立てや目的、実習病院の概要などについて説明する時間を設けた。</p>	<p>成果：病院から大学への相互交流の参加者は10病院から12名おり、これまでの最多となった。学生実習を病院でどのように行っているのか、関心の高まりがみられた。実習を受け入れた経験のある看護師からの話を聞く機会が得られたことにより、自施設での実習の受け入れをイメージしやすくなった。また、実習の受け入れを、利点として捉えることにもつながった。演習のテーマを「私の病院のこと、教えます！」として、グループワークを行ったところ、参加者同士の交流を促すことができ、他病院の現状について等の情報交換ができていた。大学から病院への相互交流では、大学で実施したりカレント教育の活用状況を確認することで、リカレント教育の充実に役立つ情報が得られた。課題：学部の授業に合わせて日程の調整を行うことが難しい。授業参加以外の時間については、相互交流の目的に適した演習等を計画する必要がある。実習は日程や受入人数の調整がつかず、全ての参加者の希望通りの内容にすることは難しい。課題への取組方針：今年度の参加者の報告書の内容や、連携協力病院会議での意見を取り入れ、相互理解の促進に向けて、事業内容の充実を検討する。</p>	S	S

【事業普及】

計 画	実 施 状 況	成果と今後の課題	自己 評価	外部 評価
<p>○ホームページ更新、ホームページコンテントの見直し、修正（随時）</p> <p>【Jナースカフェ】 ○リカレント教育受講者や相互交流派遣者を中心に小規模病院等の看護職の交流・情報交換の場として「Jナースカフェ」を開催。（8月・3月）</p> <p>○その他</p>	<p>地元ナースのホームページの内容は、大学のホームページ内に移動した。看護学科のページ内に「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」のページを作成し、カリキュラムや募集要項等を掲載した。 地元ナース懇談会開催後、評価結果をホームページで公表する。</p> <p>今年度第1回を、8月1日に開催した。今後の地元ナース事業の再構築について説明し、意見交換を行った。第2回は、3月25日に開催を予定していたが、新型コロナウイルスのため中止とした。</p> <p>地元ナース事業の動向についてリーフレットを作成し、小規模病院等に送付した。</p>	<p>成果：地元ナース事業の広報記事について、大学のホームページ内の看護学科が所掌している箇所に掲載した。 課題：現在看護学科のページ内にて案内を掲載しているが、地元ナース事業で発信した情報が他の記事が更新されると目立たなくなる。また、助成金事業の際のページもあるため、学外者が最新の情報を探すことが困難になっている。 課題への取組方針：広報が継続して必要な記事について、随時更新していく。大学ホームページ内に「看護実践研究センター」のページを開設し、他の部会も活用出来るような情報発信の方法を検討する必要がある。</p> <p>成果：8月は開催まで間もない時期での広報であったが、7名の参加があった。今回は新規の参加者が多く、小規模病院等看護職の交流がより深まった。 課題：交流だけでなく、学びを深める場としての活用も検討が必要である。 課題への取組方針：小規模病院等で取り組んでいる看護研究について発表する機会を設け、研究を通じた意見や情報交換の場を企画する。</p>	A	B

【事業推進】

計 画	実 施 状 況	成果と今後の課題	自己 評価	外部 評価
<p>○本事業で実施した各事業の成果や課題をまとめ、関係学会への発表や論文投稿を行う。</p> <p>○その他、事業推進に関すること</p>	<p>12月に第39回日本看護科学学会学術集会において、『山形発・地元ナース養成プログラム』におけるリカレント教育効果一履修証明プログラム修了生の組織への貢献一」を発表した。</p> <p>3月の山形県公衆衛生学会において、「山形発・地元ナース養成プログラムの成果と新しいステージに向けた再構築」「山形県立保健医療大学「看護実践研究センター」の再編一地域に根差した活動を目指して一」「山形発・地元ナース養成プログラムにより地域包括ケア実践に参加した経験と地域理解」「2019年度相互交流による新人看護師研修会の成果」の5題発表した。</p> <p>保健所が地元ナース事業に関心をもち、管内の看護職を対象とした研修会の開催など、保健所と大学との連携が始まり、会議を行った。</p> <p>山形発・地元ナース養成プログラムが日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会の「地元創成看護の提言」の調査対象となり、11月25日に首都大学東京の西村ユミ先生が来学した。地元ナースを担当した教員や、小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの受講生に対しヒアリングが行われた。</p>	<p>成果：プログラムに関し、学会発表を1題行い、3月に5題発表予定である。</p> <p>課題：継続的に学会発表・論文投稿が出来るよう取り組みを続けることが必要である。</p> <p>課題への取組方針：プログラムの見直しや修正を行ったものや、新たな取組みについて、特にまとめて報告を行う。</p> <p>成果：最上保健所が管内看護職教育として地元ナース事業に関心をもち、打合せを重ねた。3月上旬に最上保健所主催の「フィジカルアセスメント」研修が開催される運びとなった。本学が講師とシミュレーターの派遣を行い、演習には最上管内のリカレント教育修了生が当たると予定である。また、置賜保健所の地域版看護師キャリアアワード（仮称）が企画されている。（研修及び企画会議は新型コロナウイルスのため中止）</p> <p>日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会の調査対象となったことで、全国発信に繋がる。</p> <p>課題：来年度、保健所との協働や全国発信を更に発展させていくことが必要である。</p> <p>課題への取組方針：保健所と会議などで情報共有や意見交換を行い、研修会等などの企画について積極的に協働していく。来年度纏められる予定の日本学術会議の報告書の活用を図る。</p>	A	A

【事業評価】

計 画	実 施 状 況	成果と今後の課題	自己 評価	外部 評価
<p>○地元ナース懇談会を開催する。(2月)</p> <p>○本事業の協力施設の看護部長や各事業参加看護師を招き、連携協力病院会議を開催する。(2月)</p>	<p>補助事業の終了を機に、外部評価委員会を「地元ナース懇談会」と名称を変更する。2月26日に開催し、結果はホームページで公表した。</p> <p>補助事業期間は、人事交流事業の実施病院等の病院長・看護部長を招き意見交換を行う場として、人事交流評価会議を行った。補助事業終了後は、「連携病院協力会議」と名称を変え、2月26日に開催した。</p>	<p>成果：今年度より新しい取り組みにし、事業に組み入れることができた。</p> <p>課題：実施時期が2月の開催で適当であるか、確認する必要がある。</p> <p>課題への取り組み方針：今年度の会議で開催時期について、懇談会委員や協力病院の看護職より意見を聞く。</p>	A	A

【その他】

計 画	実 施 状 況	成果と今後の課題	自己 評価	外部 評価
<p>○「山形発・地元ナース養成プログラム」の最終報告書を作成、提出する。</p>	<p>令和元年5月10日、文部科学省に最終報告書を提出した。</p>	<p>成果：8月26日に文部科学省ホームページで平成26年度に選定された課題解決型高度医療人材養成プログラム26件の事後評価結果が公表された。本学は「S評価：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる」を得た。S評価は全体の26件中4件であった。看護系大学の5件でS評価は本学のみであった。</p> <p>文部科学省の補助事業は終了したが、大学事業として再構築し、地元ナース事業として継続できた。事業の切り替えに伴い周知が直近となってしまうが、補助事業と同等規模の受講・参加者が集まった。また、県内2か所の保健所が地元ナース事業に関心を寄せており、本事業のニーズの高さを実証できたといえる。</p> <p>課題：①再構築した地元ナース事業を広く周知するとともに、PDCAサイクルによりブラッシュアップを続ける必要がある。②大学事業として継続する予算を確保していく。③補助事業だった「山形発・地元ナース養成プログラム」の経過・成果を資料として有効活用できる仕組みを構築する必要がある。</p> <p>課題への取組方針：①2020年度事業計画を2019年度中に作成し、小規模病院等の関係者に早期に周知する。保健所企画に対して積極的に協働する。また、機会を捉えて、県や看護協会等の関係機関に、再構築した地元ナース事業の成果を説明する。②予算確保のあり方について、大学の中期計画策定に合わせて検討する。③「山形発・地</p>	S	S

		<p>元ナース養成プログラム」の資料について整理し、図書館等で閲覧できる仕組み、及び大学ホームページで公開する仕組みを整備する。</p>		
--	--	--	--	--

令和元年度 地元ナース懇談会の概要

日時：令和2年2月27日（木）

13時30分～15時

202 会議室

【出席者】

（委員）佐藤里沙氏（順仁度遊佐病院）、富樫栄一氏（GP 経験住民）

石沢美嘉氏（山形県健康福祉部地域医療対策課看護師確保対策室）

（大学）前田邦彦、遠藤恵子、菅原京子、鈴木育子、菊地圭子、高橋直美、斎藤愛依

佐藤志保、佐藤敦宏

【概要】

○ 学長挨拶

この会は、昨年までの文科省の補助事業の中で、外部評価として位置づけられていたものである。今年度から懇談会と名称を変えたので、ざっくばらんに、特に学外者の方から忌憚のないご意見を頂戴したい。

○ 配布資料の説明

- ・（委員）BP（職業実践力育成プログラム）について、今後ブラッシュアッププログラムについて受講料をとることとする場合は、厚労省の事業と組み合わせると、授業料の一部がキャッシュバックになるようだが、その点についてどのようになっているか。

（大学）キャッシュバックになるような対象にするには、文科省への申請とは別に、厚労省への申請も必要であるということで、現段階では、その基礎条件を固めたというところである。

○ 各事業に対する質疑と意見交換

<リカレント教育>

- ・（委員）小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムについて、今年度の参加者が少なかった誘因を挙げていたが、自施設のところで考えてみると、小規模病院だと研修に出したくても人員配置の関係で出したくても出せないというのが課題に挙げている。今年度は各部署に、希望者と人数を限定して募集をかけたのが、影響があったかと思われた。
- ・（委員）開催案内の周知、受講案内送付の時期についてはどうか。
（大学）春先に人員配置を考えるので、出来るだけ早い時期に案内を頂けると計画に盛り込めると思う。
- ・（委員）フォローアップ研修の参加者が1名だったということに、何か要因はあるか。
（大学）小規模病院の看護職の人員が少なく研修に出すのが難しいのと、ブラッシュアッププログラムで受講に時間をかけたので、翌年も研修に出ることが、周囲への気遣いもあり、難しいと考えている印象がある。
- ・（委員）フォローアップの案内は、前年度の受講生にしか出していないとすれば、修了年度をさかのぼって、まだ受講していない修了生にも、案内を出してはどうか。

- ・(委員) フォローアップ研修に出てほしいと思っても、子育て世代であったり、大学まで遠距離であったりすると、60 時間に受講時間が減ったとしても、その前段のブラッシュアッププログラムを修了することすら難しい。
- ・(委員) 遠距離の施設に対し、大学側では何か対応はできないのか。
(大学) ICT を活用して、遠距離でも受講できるような体制はあるが、フォローアップ研修ではむしろ活用しにくいのか。外部に出かけて行う研修もあるので、実際に顔を合わせしたところで話をする必要があるので難しい。
- ・(大学) 職場の状況でなかなか出られない状況のようだが、内容については、魅力のある内容か？
(委員) ニーズに沿った内容ということで、受講したスタッフからは、すぐ実践に役立つ内容で大変良かった、と聞いている。

<ICT 活用>

- ・(委員) 以前はうまく出来ていたようだが、システムが変わったのか。
(大学) LAN 工事が行われたが、はっきりした理由はわからない。セキュリティ関連が厳しくなったこと、使用できる PC が限られ、設定が個々の PC で異なることがあり、実際に行う時に不具合が生じているようである。
現在使用している無料の会議システムが、使用終了になる。何か別のシステムが使用できるか、検討が必要。
Skype や、大学院で使用しているシステムなど、使用できるものは使用できるか検討する。
- ・(委員) ICT 使用者が 3 名だったのは申し込みがなかった、ということか？
(大学) 当初から申し込みがなかった。
補助事業期間に使用した PC のセキュリティソフトの更新が必要であったり、設定の関係もあるのか、病院側でもハード面で接続が難しい部分もある可能性もある。接続するツールの問題もあるかもしれない。

<相互交流> なし

<事業普及>

- ・(委員) HP について自宅から見ようと思ったが、地元ナースの取り組みやセンターの取り組みについて直接は見られない状況であった。補助金関係のページのバナーはあったが、終わった補助金事業の成果が書いてあった。看護実践研究センターのバナーから、看護実践研究センター全体の概要がわからないとダメなのではないか。この他にも、看護実践研究センターで行っている事業があるということなので、そちらもわかるようにした方がよい。看護実践研究センターは、図書館と同じ位置づけで大学の附置機関なので、図書館と並びでバナーを作成し、そこからセンター全ての事業が分かるような仕組み作りが必要ではないか。
(大学) おっしゃるとおり。大学の HP にセンターのページを作ることは出来ないか検討したところ、仕様が古いので更新が難しいこと、作成するにしても権限の問題もあり、難航している。
サイバー攻撃の関係上、セキュリティを上げているので難しい部分がある。業者も交えて

検討しなければならず、簡単にできずにいる。

現行の業者とは、セキュリティの契約のみで、HPの更新については行っていない。新たにHPを作成するにしても、他の業者に依頼したり、経費が高額になり、予算の確保が厳しい状況にある。

出来るだけ予算を見て、HPに関して、何とか出来るだけ見やすいようにしていきたい。

- ・(委員) 小規模病院側から見たら、パンフレットやリーフレットがあったとしても、ちょっと見たい時にHPで見ることが出来ないのは問題である。小規模病院にとっても、大学で看護実践研究センターがある、というのが分からない状況にある。是非、次回にはA評価となるようにしていきたい。

<事業推進> なし

<事業評価>

- ・(委員) 評価開催時期について、もう少し早い時期に行い、次年度の計画に活かされて、情報が早く頂けると有難い。
(大学) 計画した事業が終わるのが、12月以降になるのでなかなか早くは難しい。

<その他>

- ・(大学) 文部科学省の事業事後評価では、すごく良い評価を頂いた。協力病院の方はじめ、学内の職員、その他の多くの方の協力によって頂けた成果である。

【全体を通しての意見交換】

- ・(委員) フォローアップ研修の参加者が少ないという報告だったが、事前(ブラッシュアップ研修の終了時)に告知していても少ないのか。
(大学) ブラッシュアッププログラム終了時に、次年度フォローアップ研修があることを伝えている。
- ・(委員) フォローアップ研修は、必ず受ける、という風にはできないか。または、内容的に必ず受けなければならないといったような内容ではないから受けないのか。
(大学) 強制ではないので、難しい。
- ・(委員) 保健所との連携が始まったというのは、(事業の認知が)進んできた感じがする。先日、保健所に行ったときに、地元全体で看護師確保の取り組みを行おうとしているとの報告を受け、こういうところに繋がってきているんだと感じている。
- ・(大学) 山形県の生涯サポートプログラムに、このような事業は乗っていけると考えてよろしいか。
(委員) 県では看護協会と話をしている、まずは認定看護師の活用を考えていて、地域で出前講座のようなものを行っている。予算の関係上、企画課との調整が出てくるかもしれない。
出来れば、具体的にサポートプログラムのどこに入れられるか、ご意見やアドバイスを頂きたい。
- ・(大学) 生涯サポートプログラムにおいては、小規模病院や診療所の看護職の割合が多く、地元住民にとって、すごく重要な存在である。県の事業が、小規模病院の看護職の方々にも焦点が当たって、見えるように取り組んでいただければと思う。

- ・(委員) この事業そのものを、県の事業にそっくり入れることは出来ないのか。看護協会と同じ並びで、同じ事業主体のひとつとして考えられないか。
(委員) 出来なくはないと思うが、担当課が違うので予算の関係があると思うが、出入りが難しい部分がある。
- ・(大学) 県の委託で、山大が受けているような復職研修は出来ないか。
(委員) 県ではナースセンターに委託しており、ナースセンターから受け入れてくれる病院を探して、委託しているようである。
- ・(大学) 本学のフォローアップ研修は、院内のスタッフ研修や指導が出来るような研修を行っている。そのような研修を県の生涯サポートプログラムに活用できないか。
- ・(大学) 小規模病院にもっと焦点を当ててほしい。学術会議が目をつけたのは、地方創生になる、地域の活性化につながるからと考えているからではないか。山形が住みやすいところにならないと、若い看護師は根付かない。是非、小規模病院の方からも、直接いろいろな声を上げてほしい。
- ・(委員) 人材確保の面からも、大学の取組に参加している、ということを職場説明会でも売りにしている。小規模病院の弱みとして、教育の充実というのもある。教育の充実には、かなりエネルギーを使っているのでは、この事業では恩恵を受けている。それが、人材確保にも繋げられると思っているし、実際、現場の看護師のスキルアップにもつながって、好循環になると有難い。
- ・(大学) 看護師確保は、新採だけを対象にしても人材確保は難しい。やめない支援ということが、このプログラムの大事なところで、小規模病院看護職のモチベーションを維持し、人材確保というところでは採用だけでなく離職予防も大事である。
(委員) 次年度は、中小規模病院向けに、認定看護師の出前授業の企画を看護協会と行っている。
- ・(委員) 県の生涯サポートプログラムに取り入れる各事業については、看護協会とだけでなく、県立大学なので大学にも目を向けてほしい。是非事業の一つとして活用していただきたい。
- ・(委員) 小規模病院の看護職の離職には、教育が足りないというのがある。なぜ看護師が就職しないか、という要因にスキルが伸ばせない、教育に不安がある、というのを聞く。センターでは研究支援もしている。小規模病院に勤めていても、ちゃんと研究ができるとわかれば離職者は減るのではないか。ここでやっている事業のいくつかは、県の新しい生涯サポートプログラムの事業に入れられるのではないか。
- ・(委員) 学士課程教育に関してだが、補助金事業の結果報告には学生へのアンケート結果が紹介されているが、今年度はその調査は行っているか。是非、継続して行って頂きたい
(大学) 行っているが、まだ報告できる状態にない。
- ・(大学) 今年度、小規模病院への就職した学生は複数名いる。学生本人が選択して就職している流れが出来てきている。

令和元年度 連携協力病院会議の概要

日時：令和2年2月26日（水）

13時30分～15時30分

401会議室

【出席者】

協力病院：（公立高島病院）高橋由美、鈴木久美、黒澤彬恵、（川西湖山病院）大淵愛
（最上町立最上病院）遠藤由美、菅智美、（順仁堂遊佐病院）信夫松子
（真室川町立病院）井上典子、（町立金山診療所）長岡由美
（尾花沢病院）正野摩衣子、大貫春奈、（寒河江市立病院）渡辺ひろみ、
保立美枝子、青木明美、（みゆき会病院）川井ひろみ、細谷由紀、佐藤万寿美
（矢吹病院）川合由美子

大学：前田邦彦、遠藤恵子、菅原京子、鈴木育子、菊地圭子、高橋直美、斎藤愛依
佐藤志保、佐藤敦宏

【概要】

○学長挨拶

- ・この地元ナース養成事業は、平成26年度に文部科学省の補助事業に採択され、昨年度で5年間の補助事業期間を終えた。今年度より大学独自の事業として行われることになった。補助事業から大学の事業への転換では、予算をどうするのか、皆様（協力病院）に意見を伺ったり、大学や設置主体の県と協議した結果、今のところ大学が主体となり今年度は事業を継続した。来年度以降も、この事業を継続し発展させていきたいと考えている。
- ・文科省の補助事業が終わった際に事後評価があり、5年間の事業内容や成果など総合的に評価され、本学はS評価を頂いた。全国で26件採択された事業のうち4件がS評価だった。看護系での採択は5件あったが、S評価は本学だけであった。皆様の協力を頂いて事業を展開できた結果でもあり、あらためてお礼を申し上げたい。今後継続していくことも含めた評価なので、続けていくとともに、もっと全国に発信していきたい。山形だけでなく、他の大学、中小病院にもこの取り組みを紹介し、取り入れられるよう取り組んでいきたいと考えている。

○事業報告に関する意見交換

<小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム>

（病院）

- ・プログラムに参加して、自分の振り返りにもなるとともに、スタッフへの指導にも生かすことが出来ている。
- ・似たような環境の仲間が受講していたので、毎日ランチをしたり、その時に情報交換をしたりして、悩みが自分だけじゃないと共感できた。
- ・今後のプログラムへの希望として、今行われている新しい看護の内容を取り入れてもらいたい。

- ・「急変時の看護」を受講するまでは苦手意識があったようだが、受講後は何を準備したらよいか、医師に何を報告したらよいか、整理して理解することができ、自信を持って臨むことが出来ているようだ。
- ・「終末期の看護」を受講し、毎日終末期に関わっているが、受講後はアドバンス・ケア・プランニング（ACP）についての意識が高まったようだ。
- ・「地域密着連」を受講し、改めて地域包括ケアを学び、受講後は自分自身で書籍を購入し学びを深めていた。訪問診療に携わっているが、これからどうしていかなければならないか、よく理解でき、良い機会になった。
- ・時代に変化に即した技術や知識を習得することが出来た。講義や演習では、患者さんの立場に立った貴重な体験をすることが出来た。
- ・同年代の方と交流でき、今後の看護に対する姿勢を考える機会や励みになった。今後もこのような研修の機会があれば、積極的に参加するよう他のスタッフにも発信していきたい。
- ・時代が変わっても、変わらないのは患者中心の看護であること、というのが印象に残った。根拠に基づく看護で患者体験をさせてもらい、とても貴重な体験となった。

<相互交流>

(病院)

- ・他の病院の方と情報交換や意見交換をできたことが、自分が悩んでいることが他の病院の方も悩んでいることだったりして共有でき、自分だけじゃないんだと実感できた。
- ・実習の受け入れをしている病院の方と情報交換でき、新人看護師と学生が話をする機会を設けている報告を聞いて取り入れてみたいと感じ、自施設に持ち帰った。
- ・コミュニケーションの授業に参加し、長年病院で勤務していても、実際なかなか出来ていないなと、振り返ることが出来た。もう一度基本に戻って、大変勉強になった。
- ・ブラッシュアッププログラムに参加した看護師が実習指導を担当しているという話が出て、そういうやり方もあるんだと興味深く聞いた。
- ・相互交流で実習を受け入れた側として、時期が11月末で（今年は雪が降らなくてよかったが）、参加者からももう少し早い時期がいいという声があり検討していただきたい。
- ・実習に参加させてもらい、とても新鮮だった。当院はまだ実習の受け入れはしていないが、実習担当者の話が聞けて、今後自施設での実習の受け入れについて考えるうえで学びになった。アサーティブコミュニケーションの授業に参加し、自施設に戻ってから伝達講習を行った。大変有意義だった。
- ・看護大学の基礎教育について理解できた。病院における新人教育の体制作りの必要性と、看護師一人一人の教育力の向上が必要だと感じた。
- ・1日という短い実習の期間だったので、事前に実習の方針について教えてもらおうと、もっと学びが深まったと思う。病院指導者と教員の実習の調整の様子も見せてもらえると、自施設で行う時の参考になると思った。

<その他>

(病院)

・積極的にプログラムに参加しようとするスタッフがあまりおらず、研修に参加させる側として、割り当てて参加させている部分があるが、参加後は良い変化が見受けられた。参加してみないとわからない部分があるので、機会がある限り参加させたいと考えている。

・1年生の演習に講師として参加した。外部講師として呼んでいただけると、自分自身も振り返りができ学びになった。学生とも顔見知りになり、実習で受け入れた際にも、良い関係を作ることが出来た。

<質問>

・(病院) ブラッシュアッププログラムはこれまで2年間で、修了することが出来ていたように思うが、それは継続しているのか。

(大学) 連続する2年間で修了できることは変わらない。次回から、もっと丁寧に要項等でお伝えしたい。

・(病院) 受講料について、無料だと大変ありがたい。今後はどうなるか？

(大学) 昨年度、受講料の検討も行ったが、今のところ諸事情のため受講料等の徴収は行っていない。次年度も徴収しない。その次の年度については、学長や事務局、設置主体の県とも検討が必要と考えている。

○情報交換・意見交換

(大学) プログラムを修了し、自施設での研修に活かしている取り組みについて教えて頂きたい。

(病院)

・プログラムで受講したフィジカルアセスメントについて、自施設で研修会を行っている。昨年度から研修会を企画し、フィジコやリトルアンなどのシミュレーターを大学から借りて実施した。自施設ではシミュレーターはなく、研修を受ける機会もなかなか得られない。シミュレーターを利用し、心音や呼吸音、腸音などの正常と異常の違いを実際に聞くことで、とても学びが深まっていた。昨年度は日勤終了後の研修で急いで行ったため、参加者から「もっとじっくり学びたかった」という声があった。今年度は新卒者が入職したので、リトルアンを利用した急変時対応の研修を主に行った。心音や呼吸音について学びたいスタッフ向けに、フィジコを利用した研修を行った。

(大学) 尾花沢病院では1年生の基礎看護学実習Ⅰを、公立高畠病院では4年生総合看護学実習を、川西湖山病院では3年生の成人慢性期看護学実習を受け入れていただいている。実習受け入れの状況や、実習を受け入れるうえで、地元ナース事業に受けた看護師がどのような役割を担っているかご紹介いただきたい。

(病院)

・慢性期の看護学実習を受け入れて、2年目になる。自施設で受入れが可能か不安だったが、教員

の協力を得ながら、リカレント教育を受けたスタッフを中心に担当している。まだ不慣れで、どのようにアプローチしてよいか難しいという声があるが、スタッフの慣れや経験知が必要と思っている。

当院のリカレント教育修了者は8名になったが、病院のスキルの底上げの程度等、まだ評価はできていない。リカレント教育修了者の活かし方が病院でまだ定まっていない。院内のラダーや元々あった研修とどのように組み合わせると、修了者のキャリアアップにつながるのか課題と考えている。

- ・当院では、看護学校の学生実習の受け入れを始めてから3年経った。地域包括ケアと、老年の80～90名の学生を受けている。実習指導者の研修を受けたスタッフが約10名、各病棟に散らばっている。まだ不慣れで自分たちの病院しか知らないスタッフが、実習の受け入れ方などを今より良い方法を知りたくて、大学に来て参加している。現場で指導者の会を月1回持っているので、そちらで還元してもらっている。

- ・実習の受け入れというよりは、新人研修を行うために受けてもらった。リカレント教育は毎年受講させている。4年生を受け入れるに当たっては学生さんのやりたいことと、病院の出来ることがマッチしたので、昨年度と一昨年度に学生さんの受け入れを行った。リカレント教育を受け、新人教育を行った経験が活かされていた。若い職員にも普及してきており、この事業に参加してよかった。

- ・当院では、実習の受け入れはなく、新人の入職も数年ない。自ら学びに行く人もいれば、行かなくても特に問題ない。世の中の情勢など学ぶ機会もない。外に出ないとわからないこともある。このままでは、実践力が向上しないと危惧している。

(大学) リカレント教育受講者のキャリア支援について、管理者の立場の方の考えを伺いたい。

(病院)

- ・3年前からブラッシュアップに参加し、昨年度から相互交流にも参加させている。新人が来てどのように学んできているかわからないと指導もできないので、大学のリカレント教育を受けさせている。

- ・スタッフより受講希望の申し入れがあり、今年から研修に出ている。事業の初期から参加していれば、受講したスタッフが周囲のスタッフに受講を促すような環境になったり、受講者が増えてよい環境になったのではないかと思った。

- ・この会議に出て、シミュレーターを借りて研修を行うことが出来ることなど初めて知ったので、自施設でも利用させていただきたいと思った。

- ・新人看護師の入職は数年ないが、職員の動機づけとして研修に参加させている。この事業に参加させるにあたっては、1・2名という少人数でしかできない。既卒者なので、モチベーションを挙げて地域に貢献できるよう、研修に参加させている。学び直しという部分で、ブラッシュアップに参加させている。院内ではラダーにも取り組んでいるので、それと合わせて教育に取り組んでいきたいと考えている。

- ・中堅世代が多く参加に手上げはほとんどなく、業務命令的に参加を促している。

- ・地元ナース事業を自施設の教育の柱にしたいと考えているが、1年間の計画を立てるためにどうしたらよいか悩んでいる。大学の取り組みを、自施設のラダーに組み込んでいきたいと考えている。いろいろなプログラムを紹介していただけると有難い。

<その他>

(病院)

・1年生の演習に講師として参加した。外部講師で呼んでいただけると、自分自身も振り返りができ学びになった。学生とも顔見知りになり、実習で受け入れた際にも、良い関係を作ることが出来た。

(大学)

・指定規則が改正される予定であり、大学が独自に重きを置いていることを取り入れた実習を組み入れることが出来るようになる。本学の特徴を生かした実習を考えると、地元ナース事業により、皆様の病院のような総合的な医療を提供する病院、包括ケアを行うところに重きを置くことになるのではないかと考えている。その時に是非、皆様の力をお借りし、現場の実際を講義や演習でお伝えいただければと考えている。大学から遠いなど壁はあるが、実習もお世話になりたいと思っている。これまで小規模病院で実習を受けた学生の評価は高い。学生が実際現場に出て体験することが刺激になっており、学生を実習に出して良かったと思っている。

・大学の实習は、文科省管轄で、看護学校の実習の指導体制とは違っている。大学の实習は、ほぼ毎日教員が行ったりして、事前に綿密な打ち合わせをしたり、ICTを使って学生の状況を把握したりしている。実習指導者講習会を受けた方がいなくても、大学の实習ができる実習を組み立てるので、今でも受け入れていただくことは可能である。小規模病院での実習を推進していきたい。

・地元ナース事業があるので、山形県では先進的な実習を実施することが出来ると考えている。これからカリキュラムが変わるが、リカレント教育を受講していただき大学教育に還元していただきたい。実施していく上で大学側としてまだ課題があるので、機会を捉え意見交換をし、様々な視点で意見や希望を教えてください、それを事業の中で取り入れていきたい。

・ブラッシュアッププログラムは、学び直しと、実習指導できるようになるという2つの視点で構成している。最新の知識・技術を提供する科目、変わらない看護を伝えるものと織り交ぜて構成している。病院側で、他の研修会との兼ね合いも見ながら、選択して受講していただきたい。取り入れてほしいものがあれば、今後、意見を頂きたい。

部会名【 特定行為研修部会 】
委員名 沼澤さとみ 半田直子 栗田敦子 佐藤志保
実績と課題(事業項目ごとに簡潔に記載してください)
<p>看護師特定行為研修受託事業</p> <p>実績</p> <p>看護師特定行為研修の推進を図るために、山形県からの委託により、特定行為研修に係るヒアリング調査を実施した。調査対象は、特定看護師のいる訪問看護ステーション、病院、指定研修機関の病院、計5施設の特定看護師、病院看護管理者、指導医等であった。調査内容は、研修受講者に対する支援、実習協力施設あるいは指定研修機関としての研修や実習の体制づくりと運営、特定看護師の業務、特定看護師を増やすための課題、実習の協力施設になる可能性等であった。回答から、本学が指定研修機関の申請を考える場合、実習協力施設や指導医の確保、本学の専任教員の確保など指導体制の整備等の課題が抽出された。調査結果は報告書としてまとめて提出した。</p> <p>課題</p> <p>本学が指定研修機関の申請を考える場合、申請に向けた学内手続きやスケジュール等の確認をし、実習協力施設や指導医の確保、本学の専任教員の確保など指導体制の整備等の課題について解決の方策を検討することが必要である。</p>

部会名【 看護教員養成講習会部会 】
委員名 遠藤和子
<p>実績と課題</p> <p>○看護教員養成講習会</p> <p><実績></p> <p>山形県からの受託により，令和2年度看護教員養成講習会開催に向けた準備を行った。令和1年度は，専従職員として6月に事務担当者1名，9月に教育担当者1名を採用した。企画運営委員会を組織し，計3回の企画運営会議開催を経て，厚生労働省医政局に認定申請書を提出した（令和2年2月27日）。講習会開催決定通知は3月末に受ける予定である。</p> <p>並行して，講習会開催環境の整備として，教室の確保，担当講師，実習施設の選定と依頼，講師説明会を実施した。また，受講生の募集と選考を行い，山形県内と近隣県からの応募者から受講生14名を確定した。</p> <p>今後，eラーニング受講環境も整備しつつ，令和2年5月10日に開講を予定している。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者が当初の見込みより少なく，演習や実習科目に調整を要したが，講習会開催と教育内容に影響はないと見ている。 ・講習会の開催を5月からとして準備しているが，コロナウイルスによる自粛要請との兼ね合いで開講可能かどうか，動静を見ている状況にある。

部会名【教育力向上部会】
委員名 安保寛明（委員長） 今野浩之 佐藤志保 豊田茉莉
実績と課題
<p>○看護研究相談支援</p> <p><実績></p> <p>県内の医療機関、小規模病院などを対象として、看護研究相談支援を継続して実施した。今年度からは研究相談に対する窓口を設定して学内教員を紹介する形式で行った。</p> <p>今年度は5医療機関から研究相談があり、このうち3医療機関において研究活動に対する助言を行った。このうち2医療機関では院内での研究発表会における発表が行われた。(1医療機関は新型コロナウイルス感染者の国内での拡大から発表会自体が中止になった)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの医療機関において研究発表会は年度で行われる傾向があるため、時期と内容に一定の傾向が見受けられる。これまでの傾向を整理して、研究活動に対する支援を相談型と講義（研修）型に適した内容に整理することが効果を高めると思われる。 <p>○看護教育力向上</p> <p><実績></p> <p>看護教育に従事する人を対象として、シミュレーターを活用した演習の展開に関する研修を予定した。国内での新型コロナウイルス感染例が相次いだことを踏まえて当該研修会は中止となった。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関における現任者教育や、看護学校等における卒前教育の状況に合わせた研修会を今後も企画する必要がある。

部会名【地域連携推進部】
委員名 後藤順子 平石智子 丸山香織 佐藤千穂 佐藤志保
<p>実績と課題</p> <p>1. ホームカミングデー</p> <p>(1)2019年9月16日、参加人数40名で、卒業生との交流（芋煮会）、大学・大学院紹介、研究発表、ワールドカフェを実施</p> <p>(2)次年度の課題</p> <p>①参加者の確保、広報方法について再検討が必要</p> <p>②学内の運営委員（卒業生）の負担がかなり大きい、毎年ではなく各年や4年に1回開催でも良いのではないかと意見もでた</p> <p>③今後、看護学科、大学の事業として継続していくのであれば予算について改めて検討が必要予算について、検討する必要がある</p> <p>2. 高校1年生を対象とした看護師体験セミナー</p> <p>(1)令和元年8月7日に、県内高校1年生100人を対象として看護師体験セミナー4コースの模擬授業を開催</p> <p>(2)次年度の課題</p> <p>①協力してくれる在校生の確保が困難</p> <p>②4つのコースの依頼（交渉）が年々困難</p> <p>③実習室等の空調の調子が悪い</p> <p>④事業にお金（予算）がつくがセンター事業として自由に使えるお金（予算配分）ではない、</p> <p>3. 地域医療体験セミナー</p> <p>1) 2019年9月に地元論の一環として実施。6医療機関で60名参加</p> <p>2) 次年度への課題</p> <p>①講義がタイトなので、正規の授業期間に組むことが難しい。</p> <p>②本来の地域医療体験セミナーの目的は、体験だが準備や打ち合わせが教員ではかなり負担で、病院施設の見学と先輩との交流が主になっている</p> <p>4. 母子保健コーディネーター研修会(委託事業)</p> <p>1) 2019年10月と11月に実施</p> <p>2) 課題</p> <p>①参加者には好評なプログラムであった。</p> <p>②日程がタイトなので、準備がかなり忙しい。</p>

令和元年度 看護実践研究センター運営委員会名簿

氏名	職名
遠藤恵子	看護実践研究センター長
沼澤さとみ	特定行為研修部会
菅原京子	地元ナース事業推進部会長
後藤順子	地域連携推進部会長
遠藤和子	看護教員養成講習会部会長
安保寛明	教育力向上部会長
平石皆子	地域連携推進部会
鈴木育子	地元ナース事業推進部会
菊地圭子	地元ナース事業推進部会
半田直子	特定行為研修部会長
高橋直美	地元ナース事業推進部会
槌谷由美子	教育力向上部会
山田香	教育力向上部会
今野浩之	教育力向上部会
齋藤愛依	地元ナース事業推進部会
渡邊礼子	教育力向上部会
栗田敦子	特定行為研修部会
佐藤千穂	地域連携推進部会
佐藤志保	地元ナース事業推進部会、特定行為研修部会、教育力向上部会 地域連携推進部会

II. 令和 2 年度活動報告

令和2年度(2020年度)看護実践研究センターの概要

目的

県内の看護職を対象に看護継続教育、研究指導、情報発信等を行うことにより、本県における看護実践水準の向上を図る。

看護実践研究センター職員

実践センターに、実践センター長、兼任職員及び必要な職員を置く。

センター長 菅原京子

兼任職員 看護学科教員及び事務局職員

看護実践研究センター運営委員会

実践センターの円滑な運営を図るため、実践センターに運営委員会を置く。

実践センターに部会を置くことができる。

令和2年度看護実践研究センター運営委員

委員長 看護学科教授 菅原京子

副委員長 看護学科教授 沼澤さとみ

委員 看護学科教授 遠藤恵子

委員 看護学科教授 遠藤和子

委員 看護学科教授 後藤順子

委員 看護学科教授 安保寛明

委員 事務局次長 佐藤敦宏

令和2年度看護実践研究センター部会

1. 地元ナース事業推進部会 部会長 菅原京子

2. 特定行為研修部会 部会長 半田直子

3. 看護教員養成講習会部会 部会長 遠藤和子

4. 教育力向上部会 部会長 安保寛明

5. 地域連携推進部会 部会長 後藤順子

部会名【地元ナース事業推進部会】
委員名 菅原京子 鈴木育子 菊地圭子 高橋直美 齋藤愛依 佐藤志保
<p>2020 年度</p> <p>【実績と課題】</p> <p>○小規模病院等看護職リカレント教育</p> <p>「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」を10月～12月に開催した。9病院より15名が受講、内6名が全科目を履修し、履修証明書を得た。同プログラムにおけるICT活用についてはコロナ禍の影響で各病院がZoomを導入したことにより、接続・通信状況がともに良くなったが、グループワークでは周囲の音声が入り込む等うまくいかない部分もあった。小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの全科目修了生を対象とした「フォローアップ研修」については、8月～12月に対面方式で開催した。受講生は1名であった。「看護 up to date」は「診療所における高齢糖尿病患者への療養支援」をテーマに3月にリモート方式で開催し、23名の参加を得た。</p> <p>年度当初、コロナ禍の影響によりリカレント教育の実施が危ぶまれたが、例年よりも開催時期を遅くする、Zoom等のリモート活用を推進することで例年並みの参加人数を得た。一方、参加者の所属施設に固定化が見られることから、小規模病院等看護職のリモート活用のサポート体制の整備を図ること、リカレント教育の内容の見直しが必要である。</p> <p>○相互交流</p> <p>「大学から病院」プログラムはコロナ禍により大幅に大学教育の時間割変更がなされたこと等に伴い実施しなかった。「病院から大学」プログラムは10月～12月に対面方式で実施した。2病院2名の参加に止まったが、教育におけるICT活用への関心が高かった。来年度、コロナ禍の影響と小規模病院等看護職の看護学実習への参加について検討する必要がある。</p> <p>○Jナースカフェ支援</p> <p>第1回を令和2年11月27日にリモート方式で開催し、コロナ禍に対する各病院の取組や工夫の情報交換を行った。3施設8名の参加を得た。第2回もリモート方式で令和3年3月24日に行い、1施設3名が参加した。情報交換の場としてリモートが有効なことが確認されたので、来年度もリモート方式を継続したい。</p> <p>○協力病院会議、地元ナース懇談会</p> <p>「協力病院会議」は令和3年3月1日にリモート方式で開催した。協力病院1施設から3名が参加し、今年度事業の実施報告と意見交換を行った。コロナ禍であってもリカレント教育等を推進する意義が語られた。外部評価である「地元ナース懇談会」は令和3年3月5日にリモート方式で開催した。4名の委員と大学側から8名の教職員が出席した。遠隔地にある小規模病院の参加の利便性の向上やコロナ禍の影響への対応のため、現状よりも一層、ICT活用の推進を図るように、との提言があった。→別紙参照。</p>

令和2年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの実施結果

1. 開講科目等

科目名	単元数 (ICT 開講単元数)	時間数(時間)
看護の動向と課題	1 (1)	4.5
地域密着連携	7 (3)	13.5
根拠に基づく看護	5 (0)	22.5
看護研究の基礎	8 (4)	22.5
合計	21 (8)	63

2. 開講日等

開講期間 : 令和2年10月13日(火) ~ 令和2年12月1日(火)

開講日数 : 14日

3. 履修者数

15名 (小規模病院10名、診療所5名)

<内訳>

全科目履修希望者数 6名 (小規模病院6名)

単元履修者数 9名 (小規模病院4名、診療所5名)

単元受講者の内訳

受講単元数	1	2	3	4~6	7~9	10~12	13以上
人数	4	1	0	1	1	1	1

4. ICTの利用状況

- 履修者15名中、ICTを利用して受講した単元を有する者…2名 (履修者中13.3%)
- 全科目履修者6名中、ICTを利用して受講した単元を有する者…2名 (全科目履修者中33.3%)
- 上記2名のICTを利用した単元数・・・1単元/8単元
- 単元履修者17名のICTを利用単元数・・・0単元
- 単元履修者数17名中、ICTのみを利用した履修者…0名

5. 履修証明書の交付について

全科目履修者6名について、看護学科教員会議に諮り、修了についての審議を行い修了と認定し履修証明書を交付した。

*本ブラッシュアッププログラムは、学校教育法第105条に基づく「履修証明プログラム」として実施しており、60時間以上の講習を受講し、修了要件を満たした者には、本学から同法に基づく「履修証明書」が交付される。

6. 満足度・理解度等について

各講義終了後に回収した **Minute Paper** から、講義への取り組み、講義内容の理解度、講義の満足度を分析した。(別添の表を参照のこと。)

1) 講義への取り組みについて

【講義への参加度】

- ・大学での受講者において、「参加できた」「どちらかといえば出来た」で 100%だった。
- ・ICT 利用の受講者において、「参加できた」「どちらかといえば出来た」は 100%で、昨年度は 99.0%であった。

【内容の理解度】

- ・大学での受講者において、「理解できた」「どちらかといえば出来た」が 100%であった。
- ・ICT 利用の受講者において、「理解できた」「どちらかといえば出来た」が 100%で、昨年度は 98.1%であった。

【講義の満足度】

- ・大学での受講者において、「満足できた」「どちらかといえば出来た」は 98.2%で、「どちらかと言えば出来ない」が 1.8%であった。
- ・ICT 利用の受講者において、「満足できた」「どちらかといえば出来た」が 100%であった。

⇒ 今年度より ICT は web 会議ツール Zoom を利用した。受講者より、Zoom での講義は音声は聞き取りやすく、PowerPoint の共有も見やすかったと、高評価だった。一方、グループワークでは、周囲の音とマスクの着用で聞き取りにくかったことで、参加が難しく感じられた、という感想であった。

7. 課題

- ・ICT を活用したグループワークの環境を整える。
- ・全科目履修者、単元履修共に履修者、参加施設の増加を図る。

8. 今後の検討事項

- ・ICT を利用した講義では、システムや周辺機器を有効に活用し、より良い状態でグループワークができるよう調整する。また、別室を使用するなどし、周辺の音声が混入しないよう調整する。

R2年度ブラッシュアッププログラムMinute Paperの集計結果

単位 上段:人
下段:%

【講義への参加度】 4:参加できた 3:どちらかと言えられた 2:どちらかと言えなかった 1:参加できなかった

	大学で受講					ICTで受講					計				
	4	3	2	1	他	4	3	2	1	他	4	3	2	1	他
看護の動向と傾向	4	2	0	0	0	1	1	0	0	0	5	3	0	0	0
	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0
地域密着連携	59	7	0	0	0	0	0	0	0	0	59	7	0	0	0
	89.4	10.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	89.4	10.6	0.0	0.0	0.0
根拠に基づく看護	51	1	0	0	0	0	0	0	0	0	51	1	0	0	0
	98.1	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	98.1	1.9	0.0	0.0	0.0
看護研究の基礎	40	2	0	0	0	0	0	0	0	0	40	2	0	0	0
	95.2	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	95.2	4.8	0.0	0.0	0.0
計	154	12	0	0	0	1	1	0	0	0	155	13	0	0	0
	92.8	15.8	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	92.3	7.7	0.0	0.0	0.0

【内容の理解度】 4:理解できた 3:どちらかと言えられた 2:どちらかと言えなかった 1:理解できなかった

	大学で受講					ICTで受講					計				
	4	3	2	1	他	4	3	2	1	他	4	3	2	1	他
看護の動向と傾向	3	3	0	0	0	0	2	0	0	0	3	5	0	0	0
	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5	62.5	0.0	0.0	0.0
地域密着連携	50	16	0	0	0	0	0	0	0	0	50	16	0	0	0
	75.8	24.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.8	24.2	0.0	0.0	0.0
根拠に基づく看護	48	4	0	0	0	0	0	0	0	0	48	4	0	0	0
	92.3	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	92.3	7.7	0.0	0.0	0.0
看護研究の基礎	26	16	0	0	0	0	0	0	0	0	26	16	0	0	0
	61.9	38.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	61.9	38.1	0.0	0.0	0.0
計	127	39	0	0	0	0	2	0	0	0	127	41	0	0	0
	76.5	23.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	75.6	24.4	0.0	0.0	0.0

【講義の満足度】 4:満足できた 3:どちらかと言えられた 2:どちらかと言えなかった 1:満足できなかった

	大学で受講					ICTで受講					計				
	4	3	2	1	他	4	3	2	1	他	4	3	2	1	他
看護の動向と傾向	4	2	0	0	0	1	1	0	0	0	5	3	0	0	0
	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0
地域密着連携	59	5	2	0	0	0	0	0	0	0	59	5	2	0	0
	89.4	7.6	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	89.4	7.6	3.0	0.0	0.0
根拠に基づく看護	49	2	1	0	0	0	0	0	0	0	49	2	1	0	0
	94.2	3.9	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	94.2	3.9	1.9	0.0	0.0
看護研究の基礎	35	7	0	0	0	0	0	0	0	0	35	7	0	0	0
	59.2	36.7	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	56.1	40.9	0.0	0.0	0.0
計	147	16	3	0	0	1	1	0	0	0	148	17	3	0	0
	88.6	9.6	1.8	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	83.1	10.1	1.8	0.0	0.0

* 各科目の受講者数は單元ごとの受講者の合計である。



令和2年度 履修証明プログラム・職業実践力育成プログラム

小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム

受講生募集要項



公立大学法人山形県立保健医療大学

看護実践研究センター 地元ナース事業推進部会

■ 履修証明プログラムとは

履修証明プログラムとは、社会人等の者を対象に大学等が、一定のまとまりのある学習プログラムを提供するプログラムです。プログラムを受講し修了要件を満たした者には、大学から学校教育法に基づく履修証明書を交付することができることとなっています。

本学では、履修証明プログラムとして、「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」を実施しています。

■ 小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムとは

本学が独自に山形県内の小規模病院・診療所、高齢者施設等に勤務する看護職を対象に行うプログラムです。

小規模病院等の看護職の方々が地元の医療福祉の担い手としての役割を再認識し、発展的な看護を実践する能力の向上を図ることを目的としています。

■ 職業実践力育成プログラムとは

文部科学大臣が認定した大学、大学院、短期大学及び高等専門学校（以下、「大学等」という。）における社会人や企業等のニーズに応じた、主に社会人を対象とした実践的・専門的なプログラムです。正規課程と60時間以上の体系的な教育で構成される履修証明プログラムが対象となっています。

1 出願要件

大学入学資格を有する者又はこれと同等以上の学力を有すると認められる者で、次の要件のいずれかに該当する者とします。

- ① 病床数が原則として200床未満の病院に勤務する看護師、保健師、助産師
- ② 有床又は無床の診療所に勤務する看護師、保健師、助産師
- ③ 高齢者施設又は障がい者施設に勤務する看護師、保健師、助産師
- ④ 訪問看護ステーション又は在宅ケア関連機関に勤務する看護師、保健師、助産師

*上記の要件に該当しない場合でも、学長が認めた場合は受講が可能ですのでご相談ください。

2 募集定員

20名程度

*応募者が定員を上回った場合は、選抜を行う場合があります。

3 出願受付期間

令和2年8月17日（月） ～ 令和2年9月18日（金）

4 受講料

無料

5 出願書類

- ①履修証明プログラム受講願書兼履修者登録票（写真貼付）
記入方法は別紙をご参照ください。（ご不明な点はお問い合わせください。）
- ②受講単元申込書

6 出願方法

願書を提出する場合は、簡易書留とし、封筒の表に「ブラッシュアッププログラム願書在中」と朱書きし郵送してください。令和2年9月18日（金）消印有効です。

7 履修許可証の送付について

出願書類受領後、随時送付します。

8 履修証明書の交付

連続する2年以内に、カリキュラムの中から合計60時間以上を履修し、修了と判定された者に履修証明書を交付します。

令和元年4月より、履修時間が120時間から60時間に変更になりました。

◆ プログラムの概要

1 名称

小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム

2 受講期間

令和2年10月13日（火）～ 令和2年12月1日（火）

*開講式及びオリエンテーションは、講習会初日（10月13日）10時から行います。

*閉講式は最終日（12月1日）の講習終了後に行います。

3 受講の方法

- ① 履修証明書の取得を目的としない、いくつか単元を選択して受講することも可能です。
- ② 科目の単元によっては、講座開講時間帯に一定の条件を備えたパソコンでICTを活用して、勤務先でも受講できます。なお、ネット環境によっては、十分に受講できない場合もありますので、詳細はお問い合わせください。

* ICT（Information and Communication Technology）とは情報通信技術の総称です。

■ 願書の請求・提出先及び問い合わせ先

公立大学法人山形県立保健医療大学 看護実践研究センター

〒990-2212 山形県山形市上柳 260 番地

☎：023-686-6614 fax：023-686-6675

E-mail：ns-cent@yachts.ac.jp

5 カリキュラム

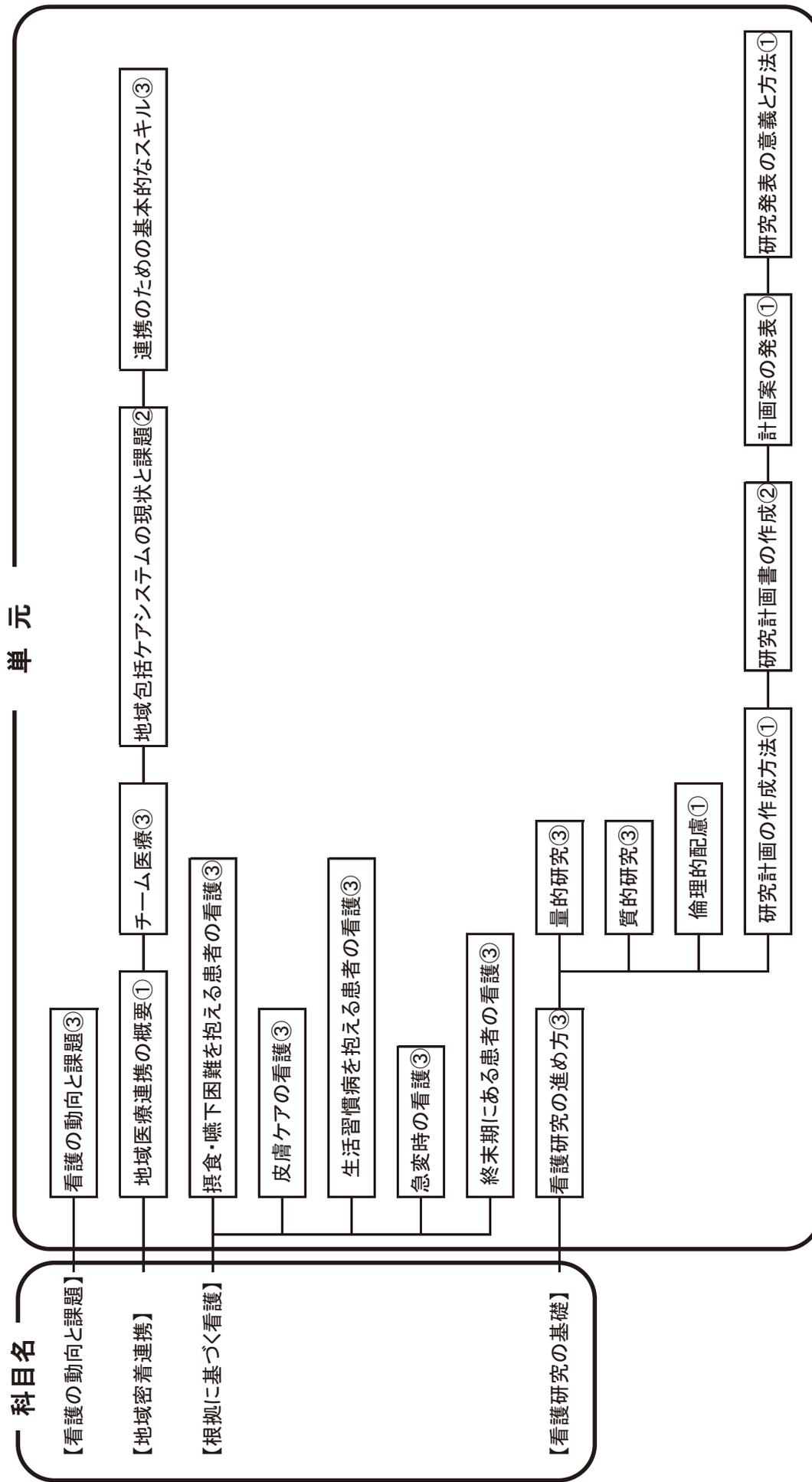
ブラッシュアッププログラムは、次の4つの科目で構成されています。

科目名	単元名	授業時間・担当講師名	開講日	ICT
看護の動向と課題	・看護の動向と課題	菅原京子・佐藤志保	10月13日(火)	可
地域密着連携	・地域医療連携の概要	菅原京子・佐藤志保	10月15日(木)	可
	・チーム医療：医師の立場から	前田邦彦		可
	〃 リハビリ職の立場から	みゆき会病院 黒田昌宏		可
	〃 MSWの立場から	訪問診療クリニックやまがた 五十嵐絵美	10月20日(火)	/
	・地域包括ケアシステムの現状と課題	南沼原包括支援センター 東海林かおり 五十嵐絵美・東海林かおり 高橋直美		/
・連携のための基本的なスキル	NPO 法人まちづくり学校 稲村理紗	10月22日(木)	/	
根拠に基づく看護	・摂食・嚥下困難を抱える患者の看護	山形済生病院 梁瀬文子	10月27日(火)	/
	・皮膚ケアの看護	山形大学医学部看護学科 片岡ひとみ	10月30日(金)	/
	・生活習慣病を抱える患者の看護	佐藤志保	11月4日(水)	/
	・急変時の看護	山形県立中央病院 峯田雅寛	11月10日(火)	/
	・終末期にある患者の看護 ※本学学部生との合同授業	東北文教大学短期大学部 橋本美香 訪問看護ステーションやまがた 佐藤美香 高橋直美	11月12日(木)	/
看護研究の基礎	・看護研究の進め方	佐藤志保	11月17日(火)	/
	・量的研究	斎藤愛依	11月19日(木)	可
	・質的研究	今野浩之	11月24日(火)	可
	・倫理的配慮	遠藤恵子	11月26日(木)	可
	・研究計画の作成方法	菊地圭子		可
	・研究計画書の作成	菅原京子・鈴木育子・佐藤志保	/	/
	・研究計画書の作成	菅原京子・鈴木育子・佐藤志保	12月1日(火)	/
	・研究計画書の発表	菅原京子・鈴木育子・佐藤志保		/
・研究発表の意義と方法	高橋直美	/		

網掛け：本学教員

- * 1日3時限の開講になります。(Ⅰ:10:30-12:00 Ⅱ:13:00-14:30 Ⅲ:14:40-16:10)
- * ICT欄に「可」と記載されている科目は、インターネットでの受講が可能です。
- * プログラムの内容およびカリキュラムツリーは、山形県立保健医療大学 看護実践研究センターのホームページ (<http://www.yachts.ac.jp/>) にも掲載しています。

令和2年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム カリキュラムツリー



* ○内の数字は、講習回数。
1回の講習は90分
合計 42回(63時間)

令和2年度 フォローアップ研修実施結果

研修生:令和元年度履修証明修了生1名

1. 指導力スキルアップ研修 (8月26日～10月28日)

概要:「根拠に基づく看護」をテーマとした研修会の企画と実施・評価

研修生の施設において、ジェネラリスト看護師(看護師経験10年以上)を対象としたフィジカルアセスメントの学び直しの研修会「フィジカルアセスメントを学ぼう!」を企画し、フィジコを使用し行った。

○研修生の感想や意見など

- ・研修会への参加が時間外にならないよう、日勤帯で開催できるよう配慮した。勤務に影響がないよう、研修時間を1時間程度にし、少人数制で複数日行った。
- ・研修会の参加者全員が今までシミュレーターに触れる機会がなく、今回の研修が初めてであった。シミュレーターで呼吸音を聴取して、学び直しとこれまでの経験を確認する良い機会となった。
- ・研修会を開催して、これまで若い世代の看護師の教育、育成の充実を図ってきたが、ジェネラリスト世代の看護師の学ぶ機会が少なかったことを実感した。ジェネラリストは経験を積み重ねたからこそ、再度振り返り学びなおす機会が必要なのだと改めて感じた。

2. 看護研究ステップアップ研修 (8月26日～11月20日)

概要:研究計画書を作成し、計画に基づき、調査を実施しまとめた。最終日に、まとめたものを発表し、意見交換を行った。

○研修生の感想や意見など

- ・研究計画書は、前年度に受講した小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの「看護研究の基礎」で作成したものを引き続き行った。一連の流れで取り組むことが出来たので、研究の進め方について理解できた。

3. 地元医療連携ステップアップ研修 (12月9日)

概要:学部学生の授業の「相互理解連携論」の講義・演習に参加し、保健医療福祉分野以外の講師より「連携の実際」について学んだ。

○研修生の感想や意見など

- ・これからの看護でも多様なことができるのだと感じた。自分自身、これからできることを模索していきたいと思った。
- ・今回の講義に参加させていただいたのも、人と人とのつながり、相互理解につながっているのだと実感することができた。

「地元ナース事業推進部会」令和2年度フォローアップ研修 実施要項

I 目的

- ・小規模病院等で展開するスタッフ教育を実施できる企画力と調整力を養う。
- ・小規模病院等における新人看護師・スタッフへの指導力を培う。
- ・発展的な看護を実践する能力の向上を図る。

II 対象者

小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム修了生

- ・令和元年修了生 7名
- ・平成27年度～30年度の修了生で、フォローアップ研修未参加者 13名

III 研修開催期間

令和2年8月～12月

IV 会場

山形県立保健医療大学

V 研修内容・学習方法について

1. 指導力スキルアップ研修

学習内容：根拠に基づく看護をテーマとした研修会の企画・実施・評価。

学習方法：演習を通して研修会の企画のプロセスを展開、実践する。

2. 看護研究ステップアップ研修

学習内容：研究計画書の作成、研究方法の実践、研究のまとめと発表。

学習方法：演習を通して看護研究のプロセスを展開、実践する。

*** 選択制：申し込み順5名まで**

3. 地元医療連携ステップアップ研修

学習内容：連携をすすめる上で必要なスキル（ファシリテーション等）。

学習方法：学部学生の講義や演習に参加し、ファシリテーションを体験する。

*** 基本的に1と3の研修に参加とし、2については選択とする。**

VI 研修スケジュールと具体的な内容

日程	時限	項目	具体的な内容
8月26日 (水)	1	看護研究ステップアップ	研究計画書を作成
	2	指導カスキルアップ	フィジカルアセスメントの振り返り
	3		・シミュレータを用い、呼吸音・心音を聴取
9月9日 (水)	1	看護研究ステップアップ	研究計画書を完成
	2	指導カスキルアップ	研修会の企画
	3		・自施設のスタッフを対象とした研修会を想定
9月30日 (水)	1	看護研究ステップアップ	調査実施準備
	2	指導カスキルアップ	研修会企画
	3		・企画書作成、手続き、広報について
10月14日 (水)	1	看護研究ステップアップ	研究実施準備
	2	指導カスキルアップ	研修会企画
	3		・配布資料、研修会で使用する資材の準備
10月28日 (水)	1	看護研究ステップアップ	研究の進捗状況報告 データ分析
	2	指導カスキルアップ	研修会実施（学内）
	3		振り返り
11月11日 (水)	1	看護研究ステップアップ	まとめ
	2		
	3		
11月20日 (金)	1	看護研究ステップアップ	発表準備
	2		発表、意見交換
	3		講評
12月9日 (水)	1	地元医療連携 ステップアップ	相互理解連携論の概要の説明
	2		学部学生の授業に参加
	3		

*時間割

・1時限：10：30～12：00　・2時限：13：00～14：30　・3時限：14：40～16：10

VII その他

- 1) ICTは使用しません。大学で、対面研修となります。
- 2) それぞれの研修について、予定の通りに参加してください。
- 3) 受講料は無料です。
- 4) 新型コロナウイルス感染対策として、マスクの着用・手洗い・物品の消毒・社会的距離を保つ等、留意してください。
- 5) 研修日の朝は検温を行い、熱がある場合は研修への参加はご遠慮ください。また、体調が悪い時も、研修への参加は控えて下さい。

令和2年度相互交流研修事業の実施結果

1 相互交流研修事業の目的

小規模病院等の看護師と本学看護学科教員の人事交流を通して、お互いの業務の相互理解と教育力の向上を図る。

2 交流実施日程等

(1) 大学 ⇒ 病院

今年度はなし。

(2) 病院 ⇒ 大学

2 病院から 2 名：寒河江市立病院、みゆき会病院

<研修内容>

日程	時限	項目	内容・方法
1 日目	1	オリエンテーション	相互交流の目的・大学教育について（講義）
	2	大学の施設見学	附属図書館、体育館等施設の見学と活用
	3	相互交流	教員、研修参加者同士の交流
2 日目	1	遠隔授業の実際	web 会議サービスを利用した授業や、動画コンテンツ・アンケート・テストの作成・活用
	2		動画コンテンツの作成（演習）
	3		
3 日目	1	シミュレータモデルの活用	シミュレータに触れ、操作を体験し、自施設での研修への活用等の検討。（演習）
	2	在宅看護概論	学部学生の授業に参加（講義）
	3	研修会活用スキル	アイスブレイクの活用と体験（講義・演習）
4 日目	1	大学教育における看護学実習	実習の位置付け、組み立て（講義・演習） ・大学教育における実習の位置づけや組み立て等について
	2		実習受け入れの経験（講義） ・実際に実習を受け入れた経験のある小規模病院等の実習担当看護師より受け入れの実際について
	3		自施設での実習受け入れ（演習）
5 日目	1	相互理解連携論	相互理解連携論の概要について（講義）
	2		学部学生の授業に参加（講義・演習）
	3		

*「教育力の向上」に視点を置いた研修として、授業設計、実習の位置づけ・組み立て・受け入れ、といった大学教育に関する内容を入れた。特に、コロナ禍により急遽遠隔授業を行うことになったが、病院での研修にも活かせるようなスキルがあったので、それらについて説明し演習を行った。

3 人事交流者の主な感想・意見

【病院 ⇒ 大学】

＜研修成果・所感＞

・今年度は新型コロナウイルス拡大の影響から、ICT を活用した遠隔授業を行っていた。それぞれに長所・短所があり、教員の努力がうかがえた。自分達も現場で ICT を活用する前に活用方法の知識だけでなく、技術も必要になることが分かった。

・実習について実習の位置づけや組み立てを学んだ。実習を受け入れた経験のある病院の方の話聞き、実習を受け入れたことによる職場の活性化や、スタッフの意識が変わったと良い変化があったようであった。自分の病院で実習を受け入れることで、共に学びを得ようとする姿勢や指導するために自らの学びや気づきにつながるのではないかと考えた。受け入れについて、前向きに考えていきたい。

・大学教員と研修者の交流では、看護大学と看護専門学校の臨地実習の評価の違いについて話題となった。大学と看護専門学校の臨地実習における、臨床指導者の担う役割を改めて理解した。日頃から、実習指導者と教員との話し合う場面を多くし、密な情報交換や共通認識をもって実習環境を整えていくことが大事と学んだ。

・パワーポイントで動画作成を行った。現場での活用を考えた時、スタッフ教育や患者教育にも活用できるように思われた。

・大学にはいろいろなシミュレータモデルがあり、学生はそれらを活用し学んでいた。中でも、フィジカルアセスメントを学習できるフィジコに興味を持った。自部署でも借用ができれば、研修会に役立てることができそうである。

・入職 4 年目以降の教育は自主性に委ねており個人差が感じられるので、中堅看護師の研修にシミュレータを用いたフィジカルアセスメント研修を行い、看護の質の向上に繋げることが必要だと思った。

・学部学生の講義資料は、所々メモできるように工夫されていた。自部署での研修会の資料作成時に応用したい。

・アイスブレイクについて学び、グループワーク時など活用すれば、参加者の緊張をほぐし研修効果を上げることが可能になると感じた。

・研修会を開催する際の準備や時間管理、ファシリテーターの役割などについて学んだ。

・「相互理解連携論」の授業に参加し、いろいろな方面で活躍している講師の話聞き、学生とのグループワークを行った。対話することの重要性を改めて感じた。

・人の話を聞くときは聞く態度も大切、相手に伝えるためには相手がわかるように話すことも重要である。対話を通して、いろいろな協力者を増やしていきたい。

＜研修に対する意見・要望等＞

・当院では久しぶりに新卒看護師を迎え、教育委員が作成した計画に基づき、大切に新人を育成している。大学の「地元ナース養成プログラム」に沿った取り組みや学生講義の聴講、遠隔授業の実際やシミュレータモデルを使つての学習など様々なことを学んだ。今後職場で活かしていきたい。悩んだり、わからない事がある時には、先生方に教えて頂きたい。

・今まで経験したことのない ICT 関係の Zoom や PowerPoint での動画づくり、学生と共に講義を受け、

とても充実した研修であった。

4 総括及び今後の課題

○今年度の【大学 ⇒ 病院】については、新型コロナウイルス感染症の影響により教員の派遣を取りやめた。次年度は新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、可能であれば派遣する。

○今年度の【病院 ⇒ 大学】については、8月～12月に5日間の日程で実施した。初日は参加を必須とし、4日間は選択しての参加を可能とした。参加施設は2病院で、各施設から1名参加し、全日程に参加した。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、病院実習への参加は計画に入れなかった。研修内容の中に、実習や講義の組み立てについての講義・演習を入れた。実際に実習を受け入れた経験を聞き、自施設で実習を受け入れるとしたらどのようなことができるか、プログラムを作成する演習を行った。病院実習への参加ができず、学生の実習している様子を知ることはできなかったが、研修を通し実習の具体的な組み立てを理解することにより、自施設で実習を受け入れる際のイメージ作りに繋がったと考える。状況が許せば、病院実習への参加を組み入れたい。

今年度も複数の研修者が相互交流研修事業に参加されたことで、同じような規模の病院ならではの課題や実習の受け入れ等について情報交換ができた。

学部（2年次）授業の「相互理解連携論」の「連携の実際」に参加した。授業に参加する前に、「相互理解連携論」の概要、授業の組み立て等について説明した。「連携の実際」では、保健医療福祉分野以外の職種から外部講師3名を招き、オンラインを活用したパネルディスカッション形式で行った。今年度開講している「看護教員養成講習会」の受講生も合同で参加した。授業中の演習で、学生と関わる機会が得られた。ファシリテーションのような連携のスキルを学ぶ授業への参加も検討したい。

「地元ナース事業推進部会」令和2年度相互交流研修実施要項

(小規模病院等看護師用)

I 相互交流の目的

小規模病院等の看護師と本学看護学科教員が、お互いの業務を理解し教育力の向上を図る。

II 到達目標

1. 大学教育に関するオリエンテーションを通して、本大学における教育理念、教育課程の編成や実施の方針、人材育成の取り組みについて理解することができる。
2. 講義や演習を通して、看護学実習の構造や教員と臨床指導者との連携を理解することができる。
3. 教員との意見交換を通して、自施設の特徴をふまえ、実習の受け入れに関する課題や新たな実習の展望、自施設における人材育成の課題や展望を検討することができる。
4. 大学の講義や演習を通して、学生の様子を知る。また、学生がどのような内容の授業を受けているのか理解できる。

III 対象施設

協力施設 11 施設

小国町立病院、川西湖山病院、公立高畠病院、最上町立最上病院、尾花沢病院、町立真室川病院、順仁堂遊佐病院、県立こころの医療センター、みゆき会病院、矢吹病院、寒河江市立病院

IV 対象者

対象施設に勤務しており、所属長から推薦を受けた指導者としてふさわしい看護職者

V 相互交流に係る主な要件

- ・研修場所までの交通費や宿泊費については病院側で対応する。

*** 実習への参加は、諸般の事情により今年度は中止します。**

VI 日程と具体的な内容

	日程	時限	項目	内容・方法	担当
必須	10月9日 (金)	1	オリエンテーション	相互交流の目的・大学教育について（講義）	菅原京子
		2	大学の施設見学	附属図書館、体育館等施設の見学と活用	佐藤志保
		3	相互交流	教員、研修参加者同士の交流	佐藤志保
*複数選択可	10月19日 (月)	1	遠隔授業の実際	web 会議サービスを利用した授業や、動画コンテンツ・アンケート・テストの作成・活用	菅原京子 佐藤志保
		2		動画コンテンツの作成（演習）	
		3			
	11月6日 (金)	1	シミュレーターモデルの活用	シミュレーターに触れ、操作を体験し、自施設での研修への活用等の検討。（演習）	佐藤志保
		2	在宅看護概論	学部学生の授業に参加（講義）	鈴木育子
		3	研修会活用スキル	アイスブレイクの活用と体験（講義・演習）	佐藤志保
	11月16日 (月)	1	大学教育における看護学実習	実習の位置付け、組み立て（講義・演習） ・大学教育における実習の位置づけや組み立て等について	菅原京子
		2		実習受け入れの経験（講義） ・実際に実習を受け入れた経験のある小規模病院等の実習担当看護師より受け入れの実際について	小規模病院等 看護師
		3		自施設での実習受け入れ（演習）	菅原京子 佐藤志保
	12月9日 (水)	1	相互理解連携論	相互理解連携論の概要について（講義）	佐藤志保
		2		学部学生の授業に参加（講義・演習）	外部講師
		3			

◆研修の時間帯は下記のようになっています。

・1時限：10：30～12：00　・2時限：13：00～14：30　・3時限：14：40～16：10

VII その他

- ・相互交流のオリエンテーションを10月9日（金）に行います。研修者は、オリエンテーションに出席してください。
- ・*の日程は、選択しての参加が可能です。但し、時限の選択ではなく、1日の参加となります。
- ・終了後、研修の報告書（様式あり）を提出してください。
- ・新型コロナウイルス感染対策として、マスクの着用・手洗い・物品の消毒・社会的距離を保つ等、留意してください。
- ・研修日の朝は検温を行い、熱がある場合は研修への参加はご遠慮ください。
- ・体調が悪い時も、研修への参加はご遠慮ください。

1. 開催日時・場所

令和3年3月21日（日）13時30分～15時30分
山形県立保健医療大学（3階 多目的教室） Zoomを使用。

2. 参加者

診療所看護師23名（Zoom参加者数）（申し込み33名）

3. 内容

○テーマ：高齢糖尿病患者の療養支援

担当：管理栄養士…鈴木美代子、看護師…佐藤志保

○接続環境

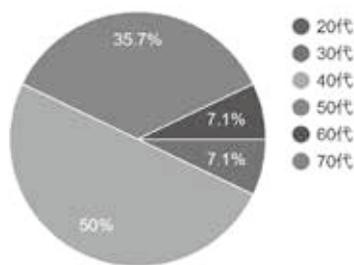
初めてZoomを使用した方もいたが、特に問い合わせはなかった。3割程度の方は、スマートフォンを用い視聴していたようであった。

4. 参加者への事後アンケート結果（抜粋）

○参加者の概要

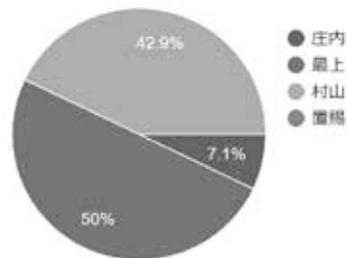
年代

14件の回答



ご所属先の地域

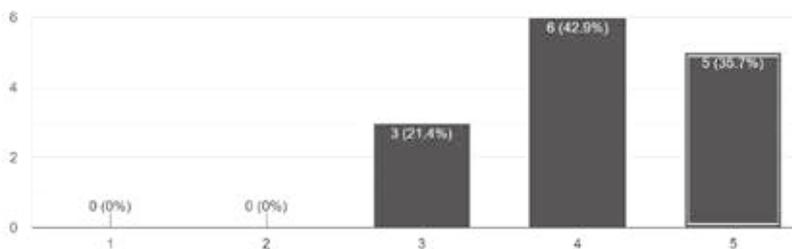
14件の回答



○理解度・満足度（5段階） 1：理解できなかった～5：理解できた 1：不満～5：満足

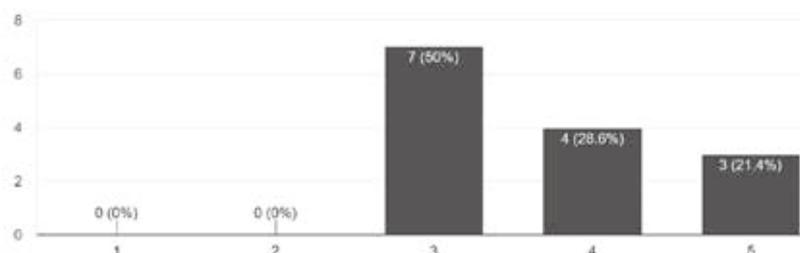
高齢糖尿病患者への療養支援について、理解度を教えてください。

14件の回答



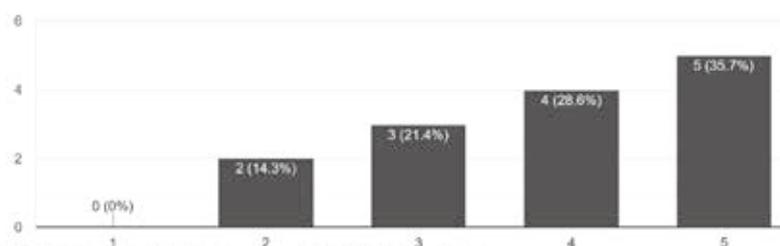
高齢糖尿病患者への療養支援について、満足度を教えてください。

14件の回答



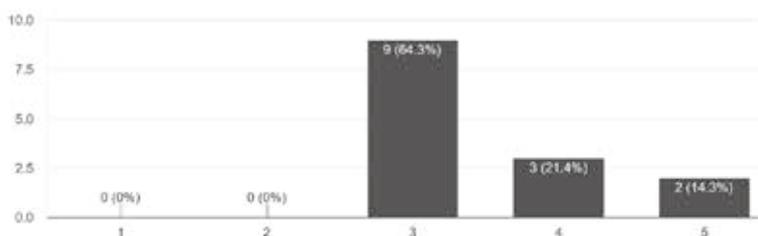
高齢糖尿病患者への栄養相談について、理解度を教えてください。

14件の回答



高齢糖尿病患者への栄養相談について、満足度を教えてください。

14件の回答



○糖尿病に関連して、どのような研修会を希望しますか？

- ・薬物療法に関して（7名）
- ・運動療法について
- ・運動と食事について、もっと詳しく知りたい。
- ・高血糖、低血糖について

○糖尿病以外で、どのような研修会を希望しますか？

- ・皮膚科疾患の見分け方。
- ・褥瘡について
- ・肥満や精神的に苦しんでいる方々への支援を学べたら嬉しいです。
- ・高血圧、脂質異常症について、循環器疾患、閉経後の高脂血症について
- ・社会支援、介護保険など制度について
- ・認知症患者の対応

○その他、ご意見・ご感想等

- ・看護協会等に入っていないので、なかなか勉強する機会がない。今回案内を頂き嬉しかった。（先生のところで止まっている？）
- ・小児肥満の増加に伴い中年並みの血液データの子供たちも多くなってきて、生活や食事相談に悩んでいた。大変勉強になった。
- ・高齢糖尿病患者、特に80歳以上の方は20年くらい前に受けた指導が、ものすごく根付いていると感じる。高齢糖尿病患者の意識改革、食事に対する考え方を変えていくのはとても根気がいる。支援をする上での声かけや説明の仕方など教えていただきたい。
- ・個々にあった適切な情報を伝えるのに、研修会に参加させていただく事は大変重要だと感じている。忙しい中患者様と丁寧に向き合うのは難しいが、早速明日から少しでも役に立つ情報を提供していきたいと思う。
- ・高血圧、糖尿病の高齢者が多く間食に食べて良い物を聞かれることが多く知りたい。
- ・初めてのリモートでリラックスして参加できて良かった。

以上（佐藤志保）

看護実践研究センター 地元ナース事業推進部会

看護 up to date 研修会

クリニックナースのスキルアップ ～WEB セミナー～

「診療所における高齢糖尿病患者への療養支援」

参加費
無料

【日 時】令和3年3月21日(日)

13:30～15:30

【対 象】診療所に勤務する看護職

【内 容】高齢糖尿病患者への療養支援

高齢糖尿病患者の特徴

栄養相談について

日常生活で気を付けること など

【講 師】一般社団法人寒河江市西村山郡医師会

総合健診センター 管理栄養士 鈴木 美代子 氏

山形県立保健医療大学 看護学科助教 佐藤 志保

【参加申込方法】メール/QRコード/FAXのいずれかにて

お申し込みください。(裏面ご参照ください。)

*当日の参加URLは、3月19日までにメールで送ります。



お申し込み・お問い合わせ先

山形県立保健医療大学 看護実践研究センター

〒990-2212 山形市上柳 260

TEL : 023-686-6614/FAX : 023-686-6675

E-mail : ns-cent@yachts.ac.jp



令和2年度 第1回Jナースカフェ 実施報告

1. 開催日時・場所

令和2年11月27日（金）13時30分～15時30分

山形県立保健医療大学（3階 多目的教室）

2. 参加者

平成27年度～令和元年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム受講生と
相互交流研修事業参加者 8名

山形県立保健医療大学教員 3名

参加者名簿参照

3. 内容

1. 開会（菅原教授）

2. カフェ（ファシリテーター 佐藤志保助教）

Zoomによる参加が可能であることを事前案内したところ全員が希望されたため、リモート形式で開催した。Zoomの接続や画像・音声等の大きなトラブルはなく、概ね快適にやりとりができた。業務の都合上、途中参加や中途退室となった参加者が数名いた。

以下のような内容について意見・情報交換を行った。

○ COVID-19について

感染対策の実態と課題（病棟、外来、施設、訪問看護等）、COVID-19感染が疑われる患者や有熱者への対応や課題、PCR検査の手順、面会や看取りなど患者・家族への影響、看護実践への影響、COVID-19対応に係わる慰労金や感染症等防疫作業手当支給について、

○ 新人研修の開催状況や看護協会等の研修会参加について

○ 男性看護師の配置・施設内異動について

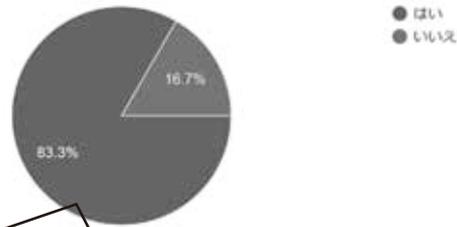
○ 看取りのリーフレットの作成・活用について

4. 参加者の事後アンケート結果（抜粋）

<参加者の概要>



これまでにzoomを使用した経験はありますか？
6件の回答



ZOOM 使用回数と機器

・ 3 回 (PC) ・ 5 回位 ・ 6 回 (PC) ・ 5~6 回 (職場の PC) ・ よくわからない

ご自分で接続の準備はできますか。
6件の回答



<カフェについて>

- ・顔なじみの方とお会いできる事が嬉しい。今おきている、現場での悩みを共有することができ、とても良い時間だった。
- ・久しぶりに他病院の方と顔を合わせる事ができて、モチベーションが上がった。
- ・Jナースカフェ、とても良い企画だと思う。また機会があれば参加させて頂きたい。

<リモート形式について>

- ・参加者を身近に感じることができて楽しめた。
- ・意見交換が zoom でも活発にできたので良かった。
- ・ICTの時よりも音声や映像が鮮明だった。
- ・臨場感があり、大変緊張したのと同時に、久しぶりの再会に嬉しさが込みあげてきた。
- ・自分の病院の中での参加なので、リラックスして参加出来ると思った。
- ・zoomにまだ不慣れなところもあり、やや緊張し、思うように話せなかったことが残念。

<Jナースカフェや地元ナース事業への要望>

- ・今後も今回のような情報共有できる場を提供していただくと、うれしい。
- ・年に数回開催して頂けると、情報交換ができとても有り難い。
- ・定期的に報告会のような、お集まりさせて頂ける機会があればと思う。

令和2年度 第2回Jナースカフェ 実施報告

1. 開催日時・場所

令和3年3月24日（金）13時30分～15時30分

山形県立保健医療大学（3階 多目的教室） Zoomを使用。

2. 参加者

参加者 3名（寒河江市立病院）

山形県立保健医療大学教員 2名

3. 内容

1. 開会

2. 地元ナース事業報告、カフェ（ファシリテーター 佐藤志保助教）

今回はハイブリッド形式ではなく、Zoomによるリモート形式で開催した。接続に関する大きなトラブルはなく、快適にやりとりができた。

病院側の環境はZoom専用の部屋ではないがweb会議ができるようカメラが固定で設置されており、カメラワークがリモコンでできるようになっていた。

令和2年度の地元ナース事業の報告を行い、以下のように意見・情報交換を行った。

○小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム

- ・専門の方から実際の現場で実施されていることを聞くことができ、大変よかった。特に「急変時の看護」の、救急外来での新型コロナ感染症の対応がとても参考になった。演習で実際にやってみることで、これまでの振り返りになり勉強になった。

- ・大学に来て実際にその場にはないと理解しにくいものもあるので、ICTを利用した研修には向き・不向きがあると思う。

- ・看護研究について、おおよその流れが理解でき、これまでモヤモヤしてわからなかったところがすっきりした。

- ・病院では、ブラッシュアップに参加した人を教育委員にしたり、教育委員をしている人に受講を勧めたりして、ブラッシュアップを活用して実践力の底上げを図っている。

○フォローアップ研修

- ・ブラッシュアッププログラムには参加するが、フォローアップ研修についてはどのようなことをするのかわからないため、参加に至らないところがあるようだ。どういうものかわかるよう、説明しやすいようにしてもらえると、参加を促しやすい。

- ・大学に来ることはとても刺激になり、今の学生がどのようなことを学んでいるか知ることができ、新人の指導に活かせると思う。学生と授業を通してかかわることで、学生から

も「現場の看護師の話が聞けて、とてもよかった」という声があったと聞いて、それも刺激になった。大学に来て実際に参加することで、わかることもあると感じている。

○相互交流

- ・実習に参加することはできなかったが、実際に実習を引き受けた方の話を聞くことで、イメージをつかむことができた。
- ・一緒に相互交流に参加した方の病院で、看護学校の実習を受けているとのことで、看護学校と大学での実習の違いを知ることができた。
- ・学生の授業に参加し、今の学生の様子を知ることが出来良かった。

<Jナースカフェや地元ナース事業への要望>

- ・大学と交流を持つことができたことがとても良かった。大学の先生から研修をしてもらい、それを基に院内で研修を続けている。このような機会を続けていってほしい。
- ・研究の進め方や文献の読み方などについて、ちょっとしたところを「ちょっと」やってもらえるとありがたい。(Zoomを使用したり)
- ・早めに広報してもらえると参加しやすいと思う。
- ・カフェもどのようなテーマか挙がっていると、準備して話しやすいと思う。
- ・カフェでほかの病院の方に、「新卒2年目研修はどうしているのか」聞いてみたい。

以上 (佐藤志保)

令和2年度「地元ナース事業推進部会」事業評価表

(S: 計画を上回って実施している A: 計画を十分に実施している B: 計画を十分に実施していない C: 計画を実施していない)

【リカレント教育】

計 画	実 施 状 況	成果と今後の課題	自己 評価	外部 評価
<p>○5月「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」募 集要項送付</p> <p>○10～12月小規模病院等看護ブ ラッシュアッププログラム開講</p>	<p>プログラムの対象施設 953 箇所に開催案 内を送付した。</p> <p>9 施設より 15 名の受講申し込みがあった。 その内、履修証明プログラム(60 時間)の全 科目を受講し、履修証明書交付を受けた修了 生は 6 名であった。</p>	<p>【小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム】 成果：新規の小規模病院や診療所からの受講があり、 本プログラムが学びの場となるだけでなく、受講 生同士の交流や情報交換の場としての役割も果た していた。履修証明書交付を受けた修了生数は、 例年並みであった。</p> <p>課題：総受講生数は、例年に比べ減少している。誘因 として、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に よって、参加を躊躇する人や、所属施設側の許可が 得られなかった可能性が考えられる。</p> <p>課題への取組方針：大学内での感染対策の現状をア ピールすると共に、オンライン受講希望者には、 スムーズな受講に向けたサポート体制の整備を図 る。</p>	A	A
<p>○7月 ブラッシュアッププロ グラム修了生にフォローアッ プ研修案内送付</p> <p>○8月 平成27年度～令和元年 度に「小規模病院等看護ブラ ッシュアッププログラム」を 修了した者を対象とした「フ ォローアップ研修」を実施す る(～12月)</p>	<p>平成27年度～令和元年度のブラッシュア ッププログラムの履修修了生でフォローア ップ研修未受講者 20 名に対し、フォローア ップ研修の案内を送付した。</p> <p>対象者 20 名中、1 名からフォローアップ 研修の申し込みがあった。指導スキルアッ プ研修では、研修生の施設において、中堅看 護師を対象としたフィジカルアセスメント の研修会を企画し、企画書の作成、広報、評 価まで実施した。看護研究スキルアップ研修 では、研究計画書を作成し、インタビュアー 査実施、分析、まとめまで行った。研修生の 自施設の看護研究発表会において、発表を行 う予定である。地元医療連携ステーション</p>	<p>【フォローアップ研修】 成果：修了生1名の参加であったが、前年度までの 内容で、フォローアップ研修を行うことが出来た。 課題：コロナ禍の影響も考えられるが、フォローア ップ研修への参加者が少ない。</p> <p>課題への取組方針：連携協力病院会議で、フォロー アップ研修の内容について検討し、得られた意見 も踏まえ、内容や構成の修正を行うとともに、広 報に力を入れフォローアップ研修への関心を高め る。</p>		

<p>○10月・12月 令和2年度全科目履修生に対し、プログラムの前後に調査を実施する。</p>	<p>研修では、学部2年生の「相互理解連携論」を受講し、連携のためのスキルを学生と交流しつつ学びを深めた。</p> <p>プログラムの評価を目的に、全科目履修生に対し受講前はプログラムに期待していること、つきたい力、学びの活用、興味関心の高い単元等について、受講後はプログラムの内容は期待に応えたか、興味関心が高かった単元、他に学びたいもの、改善点・要望等について調査した。</p>	<p>次年度の開催予定について案内を送付する。</p>
<p>○3月ブラッシュアッププログラム案内送付</p>		<p>3月21日に「診療所における高齢糖尿病患者への療養支援」をテーマにリモートで実施予定。</p>
<p>○3月「看護 up to date 研修」を実施する。</p>		

【ICT活用】

計画	実施状況	成果と今後の課題	自己評価	外部評価
○随時 リカレント教育においてICTを活用する。	令和2年度の小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム全24単元の内、ICTでの受講可能な単元は8単元あった。今年度のICTを利用して受講した者は延べ4名であった。昨年度まではGoogle Appsのweb会議システムを使用した。今年度よりZoomを使用した。ICTでの接続はスムーズだった。講義の映像や音声は清明につながった。しかし、グループワークでは、音声が聞き取りにくい、周囲の音声が入り込むなど、うまくいかない部分があった。	成果：Zoomを利用し、双方向の授業を行うことが出来た。 課題：接続状況は安定していたが、グループワークがうまくいかなかった。 課題への取組方針：周囲の音声が入り込まないよう、環境を整える。プログラム開始前に、ICT希望者に対し使用方法について説明を行う。	A	A

【相互交流】

計画	実施状況	成果と今後の課題	自己評価	外部評価
○10月 大学教員と小規模病院等の看護職との相互交流を行う。(～12月)	「病院から大学へ」の相互交流を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により、学外での臨地実習への参加はできなかった。そこで、「職員研修に係る覚書」は取り交わさなかった。「大学から病院へ」は、行わなかった。「病院から大学へ」は、大学の講義や演習の5日間で行った。学生の看護学実習への参加はできなかったため、自施設における看護学実習の組み立てを検討する演習を行った。	成果：病院から大学への相互交流への参加者は2病院から2名で、これまでの最少となった。 課題：新型コロナウイルス感染症の影響を受け、看護学実習への参加ができなかったが、やむを得ない事情により実習への参加ができなかった場合は、その内容を補完できるような講義や演習を組み立てる必要がある。 課題への取組方針：今年度の参加者の報告や、連携協力病院会議での意見を取り入れ、相互理解の促進に向けて、事業内容の充実を検討する。	A	A
○3月 連携協力病院会議を開催する ○3月 令和3年度相互交流を希望する小規模病院等の意向確認・調整	「連携協力病院会議」は、3月1日開催予定で準備中である。			

【事業推進・評価】

計 画	実 施 状 況	成果と今後の課題	自己 評価	外部 評価
<p>○3月 地元ナース懇談会開催。 評価結果をホームページで公表。</p> <p>○8月・3月 リカレント教育受講者や相互交流派遣者を中心に小規模病院等の看護職の交流・情報交換の場として「Jナースカフェ」を開催。</p>	<p>「地元ナース懇談会」を3月5日に開催予定。</p> <p>今年度の第1回目を、11月27日に開催し、リモートでの参加とした。内容は、COVID-19に関する自施設での取り組みについて、情報交換を行った。参加者は3施設8名であった。</p> <p>第2回目は3月に開催予定として準備中。</p>	<p>成果：広報を行ってから開催まで期間は短かったが、リモートによる参加が可能にしたことにより例年に近い人数の参加者がいた。COVID-19により他施設との交流の機会がほとんどなく、情報が得られずだったが、今回のJナースカフェを通し、他施設での取り組みや工夫など情報交換ができた。また、リモートを利用し参加できたことにより、久しぶりに他施設の看護職と交流が図れ、モチベーションが上がったと、参加者より高評価を得ることが出来た。</p> <p>課題：参加者の人数を増やす。 課題への取組方針：早めに広報できるよう準備を進めること、COVID-19が収束してもリモートと集合のハイブリッド型での開催が可能な内容の組み立てを計画する。</p>	A	A

令和2年度地元ナース懇談会の概要

日時：令和3年3月5日（金）

13時30分～15時

場所：多目的教育室・Zoom

【出席者】

委員：山川祐美子氏（山形県看護協会）山田敬子氏（置賜保健所）佐竹真奈氏（川西湖山病院）
富樫栄一氏（元 公益文化大学事務局長）

大学：沼澤さとみ、菅原京子、鈴木育子、菊地圭子、高橋直美、齋藤愛依、佐藤志保、渋江光晴

【概要】

○質疑と意見交換

〈リカレント教育〉

1. 小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム

[委員] 受講者の所属施設で新規の病院や診療所からもあるという報告があったが、その数とこれまでのトータルで、どのくらいの医療機関がこのプログラムに関わってきたのか。

→ [担当者] 今年度新規に受講申し込みのあった施設は、4か所で診療所からであった。いずれも単元受講であった。

[委員] 参加にあたって所属施設側の許可が得られなかった可能性があったということだが、何かそのように考えられる事例があったのか、許可が得られなかった理由は何か。

→ [担当者] 新型コロナ感染症の状況によって、プログラムへの参加は厳しいのではないかと事前に病院側から話があった。例年参加者を出している病院から、今年度は参加者がいなかったことから、このようなことが推察されると報告した。

[委員] プログラムに問題があるということだけでなく、コロナで人を出しにくかった、ということなのか。

→ [担当者] 先日の連携協力病院会議では、プログラムに関しては高評価を得ているので、プログラムの内容で、参加を辞退したということではないと推察される。また、看護職の少ない小規模病院からは、対象となる看護職は既に受講したという話も聞かれ、新規に参加する看護職が限られてきているという現状もあるようである。

[委員] 開催案内を送信した、とあるがメールなのか紙ベースなのか。病院だけでなく、診療所や福祉施設の看護師も再教育が出来ていないと感じているし、これからは病診連携、病福祉施設連携が重要だと思うので、どのように送れているのか確認したい。

→ [担当者] 案内はメールでの送信ではなく、郵送で送っている。病院だけでなく、診療所や高齢者福祉施設、地域包括支援センター、訪問看護ステーション等にも送っている。

[委員] 参加者数を増やすためには、口コミが大事だと思う。大学のホームページに、バナーか何か載せているとすれば、そこに参加者の声など載せて、もう少し敷居を低くするようにはいかが

か。そういう工夫があると、参加しやすいと思った。

→ [担当者] 受講生の感想などをまとめたものを、毎年年度末にホームページに載せている。
そのあたりも、皆さんの目に届くよう、広報を頑張りたい。

2. フォローアップ研修

[委員] 今年の参加者 1 名という結果は、相当コロナの影響はあったと考えられる。外に出る研修には参加を渋る病院があるということも耳にしていた。そこが足かせになっていたのではないかと。フォローアップ研修は、ブラッシュアッププログラムよりも参加しにくい感じがあると思われる。その位置づけや意義がはっきりと伝わっていないと、病院から出す、病院から出してもらおう、ということが、管理者側も受講希望する方も言いにくい。その意義をはっきり出した方がよい。

大学生と混ざって受講しているのは大変良いことだと思う。大学生のモチベーションも上がるし、学生同士では見えないものも見えるだろう。経験のある看護師が学生の授業にもっともっと混ざって、交流するくらいの勢いで出来たら素敵だと思うし、それが山形のモデルになれば良いと思う。

[委員] 地元ナース養成プログラムは学生の時に地元論やジェネラリズム看護論を受けていた。その時現場の看護師の方と一緒に授業を受けたり、グループワークをする機会があった。その時に頂いた意見はとても貴重で、今でも記憶に残っている。学生だけだとありきたりになってしまうが、現場の看護師が入ることで、現場からの視点での指摘や意見が新鮮に感じた。現場の方と授業を受ける経験は大変貴重だったと思っている。自施設からもフォローアップ研修に参加しているようで、学び直しの機会があることは大変良いとは思いますが、現場のことを見ている限りでは、プログラムの日程通り全てに参加するのは厳しいかと感じた。

[委員] 地元医療連携ステップアップ研修で、学生と交流できるところが、今後のこのプログラムに期待できるかと感じる。昨年と同じようなプログラムで実施できたところがあるが、実際コロナも落ち着いていた時期ではあるが、「ICT を使わないで」というところが課題。大学に来ないとできないこともあるかもしれないが、今後は ICT を使いながら、というところを考慮しながら実施されると、来年は参加者も増えるのではないかと。

[委員] フォローアップ研修の参加者が少ないという課題に対し、広報に力を入れるとあったが、フォローアップの意義や、どういう位置づけなのか、よくわからないために参加しづらいのではないかと。そこで、ブラッシュアッププログラムを広報する時に合わせて、ブラッシュアッププログラム修了者に対してフォローアップ研修が行われることと、その位置付けについて、ブラッシュアッププログラム募集要項に付け加えてはどうか。ブラッシュアッププログラムとフォローアップ研修の関係を、ブラッシュアッププログラムが始まる前から周知する方法をとってはいかがか。

→ [担当者] 頂いた意見を取り入れながら、整えていきたい。

3. 看護 up to date

[委員] 年何回の開催予定か？

→ [担当者] 年2回の予定であるが、コロナの関係で年度末になってしまった。

[委員] おおよその年間計画が示せるのであれば、前もって示しておいてはいかがか。看護職はあらかじめ予定が決まってしまうので、前もって分かった方が計画を立てやすいと思う。

[委員] 年間の企画はいつ頃立てられるか。

→ [担当者] 確かに早く周知することが大切と考えているが、補助金事業が終わって再構築となったのが昨年度で、今年度は早く周知をと考えていた矢先のコロナとなった。案内でできるかできないかの瀬戸際にいたので、結果的に周知が遅くなってしまった。

再構築のためやコロナの関係で案内が遅くなってしまったことは課題であると、大学側としても強く認識している。協力病院との会議とこの懇談会でのご意見を活かし、新年度の早い時期にご案内をしようと思う。また、看護協会との研修会の重なりが起らないよう、看護協会の予定を見ながら、病院にも負担をかけないように、こちらの方ですり合わせるような形で日程を組みたいと考えている。

[委員] 看護協会では教育計画がほぼ固まったので、間もなく印刷に出せそうな状況である。3月下旬には計画が送付される予定なので、参考にさせていただきたい。

〈ICT 活用〉

[委員] グループワークでは、音声聞き取りにくい、周囲の音が入り込むなど、うまくいかない部分があったとのことだが、内容の活性化についてはどうだったか。病院の研修会だと Zoom で行うとあまり盛り上がらない傾向があるが、音声聞き取りにくいなどあったようだが内容面ではどうだったか？

→ [担当者] そういった面では、会ったことのない人と ICT を通していろいろディスカッションが出来るというのは好評だった。もっといい形につながれて、話ができたらよかった、ということだった。

[委員] 山形の方は控えめなので、たくさん人がいると遠慮して発言できないが、Zoom でつながると単独でのつながりになるので、もしかしたらもっと意見を出せる環境になるかもしれない。また、山形の弱みとして、交通アクセスが悪くて時間がかかるので、ICT はもっとガンガン活用して欲しい。それを進めるためにも、各病院内でも ICT の勉強会をやるなど、スキルを持つことが大事である。ICT が使える環境づくりをもっと呼びかけるのも大事だし、距離を埋めるためにも ICT 活用を進める必要がある。

[委員] ICT の環境を整えることによって、グループワークももっともっと活性化できるのではないかな。次年度、是非、取り組んでいただきたい。県内でも病院によっては、Zoom の環境がよくなかったり、慣れていなかったり、使用できる環境が限られているとか、いろいろ問題があると思われる

が、県内の施設が ICT に関してレベルアップしてくれると良いと思う。

〈相互交流〉

[委員] 連携病力病院会議での意見は、どのようなものがあったのか。

→ [担当者] (相互交流に参加した看護師からは)「大学教育と専門学校の教育の違い、というものを感じた」「大学の在宅の授業に参加したが、今の学生がどのようなことを学んでいるのか分かった」「自分で Zoom を使ってみたり、PowerPoint から動画を起こすなど、実際にやってみたことで、自分たちの病院の看護師の研修に活かせるのではないかと思った」「大学の教員と話をしたが、気持ちが楽になった」との声が聞かれた。

[委員] こういった意見を取り入れて、事業に取り入れていくということのようなので、次年度活かしていただきたい。

[委員] 協力病院施設は今後もっと増やすのか？それはどのように進んでいるか？

→ [担当者] 増やさなければならない、という認識でいる。協力病院という形をとるにあたり大学の規程について、補助金事業中の規程を活かすので、既存の協力病院については、当てはまることと確認している。新しい病院に関しては、これまでの規程の読み込みでいいのか、ただいま確認中である。来年度早々には協力病院を募集していきたいと考えている。規程については、大学の事務局とも相談しながら取り組んでいきたい。

[委員] ぜひよろしくお願ひしたい。偏りがあるので、もっと当たって頂きたい。

[委員] 病院がほとんどで、老人施設が 1 か所入っているが、このような福祉施設が入ると良いと思う。

[委員] 相互交流だが、病院から大学へは 2 名だったが、大学から病院へは行わなかったという報告であったが、これはどうしてか。

→ [担当者] もうちょっと頑張っておけばよかった、と思う一方、今年度はコロナのことがあり、大学は遠隔授業という全く初めての取り組みがあった。実習も実際にできるのかどうか、綱渡りのような状況であった。そこに最大限注力したが、相互交流についてもう少し考えてみる必要があったと思われる。また、病院も、コロナ禍の中でいろいろな工夫をしていたので、大学教員として現場に出かけていき学ぶことは大切だと思う。来年度以降いろいろ取り組んでいきたい。

〈事業普及〉

[委員] ホームページに看護実践研究センターのバナーをつけたということだが、そこに「地元ナース」であるとか、J マークが一緒に見えるようになっているか。看護実践研究センターとだけ出てい

ると、すごく敷居が高く感じられる。「地元ナース」というネーミングはとても素敵だと思うので、それが見えているかどうか教えて欲しい。

→ [担当者] 看護実践研究センターのバナーには、パンフレットのセンター名のイラストと同じものを載せているので、地元ナースのロゴも入っている形になっている。バナー自体に「地元ナース」という文言は入っていないので、その点では実践研究センターの中に地元ナース事業があるということを知らない方には、少し難しいかと感じている。

[委員] 何とか工夫して出せたらよいと思うので、検討していただきたい。

〈事業推進・評価〉

[委員] 参加された方の満足度が大変高い、ということが分かった。リピーターの方が多いと、後から参加される方が入りにくい状況が起こるのではないかと、という心配がある。

人を集めるときの工夫だが、先着何名とすると、皆手を挙げやすくなる。先着 20 名とか。あまり多いと Zoom も使いにくくなるので、このような方法もある。

[委員] リピーターだけになってしまうのも心配という話があったが、この取り組みで一緒に学んだという心強さを感じたし、いろいろな情報交換の場であったり、モチベーションが高まるようないい場であると感じた。ネットワークは広げていかななくてはならないと思うので、是非参加者を募りながら、ネットワークを広げていければと思う。

○感想・意見

[委員]

コロナで本当に大変な中で、皆さんが努力されていることがとてもよく分かった。大変かもしれないが、この仕事は続けていくことが大事なので、是非もっともっと地域全体県内全体に、場合によっては県外にも、こんなことをやっているんだねと見学者が来るくらいに、そういう会に出来たら、と思うのでぜひよろしくお願ひしたい。

[委員]

初めて参加したが、学生の時に受けていたプログラムがこのように、看護協会の方やそれ以外の周りの方や病院ともつながってなされているということを実感することができた。自分自身、いい学びになった。J ナースカフェとか、病院同士のつながりはこれからも大事になってくることと思うので、オンラインを通じてでも、地元の中で通じ合っていけたらよいのかな、と思う。

[委員]

ブラッシュアッププログラムの募集要項の表紙に、履修証明プログラムと職業実践力育成プログラムの名称がつけられている。ブラッシュアッププログラムが職業実践力育成プログラムとして文科省から認可されたわけだが、このブラッシュアッププログラムの今後としては、職業実践力との関連、特に受講料とかについて、がどのように考えているのか。

→ [担当者] 履修証明プログラムは学校教育法 105 条に対応するもので、地元ナースの一番最初の時から対応していた。職業実践力育成プログラムは、学びなおしを強く打ち出しているものであり、文科省に昨年度秋に申請し認定を受け、今年度から実施している。文科省より、マークが与えられ使用するよう言われている。

受講料との兼ね合いは、今のところ、いろいろあり決まっていない。この後事務局長より話してもらうこととする。

職業実践力育成プログラムは文部科学省所管であるが、このプログラムを厚生労働省に申請すると、大学にではなく、受講者に厚労省のハローワーク関係での受講料の補助が受けられる。未だ本学は、厚労省に申請していないが、その足掛かりになったと捉えている。

[担当者] 受講料の関係は、本来の考え方とすれば、受益者負担として負担していただくのが筋である。現状は受講料無料で気軽に受けやすいという側面もあるし、大学としては受益者負担として受講料を頂いたとしても、その分、大学に入る交付金が減ってしまうということがあり、なかなか判断が難しいところである。今、来年度からの新しい計画を策定しているので、その中でしっかり位置付けていきたいと考えている。当面は現状維持ということになるが、皆さんの意見を参考にしつつ、進めていきたいと考えている。

[委員]

医療大の地元ナースの取り組みは、全国的にも貴重な取り組みで、地元の小規模病院や施設から期待される取り組みだと思う、本日、事業の取り組みの評価をしたが、継続して取り組むべき事業だと感じた。今年度はコロナという思いがけない事態で、なかなか集合できない研修では Zoom などの ICT を使って問題なくでき、むしろ安心して参加出来るというところもあったので、次年度からは ICT をもっと活用して参加者を増やし、この事業が続くとよいと思う。

令和2年度連携協力病院会議の概要

日時：令和3年3月1日（月）

13時30分～15時30分

場所：多目的教育室・Zoom

【出席者】

協力病院：（公立高島病院）高橋由美、鈴木久美、黒澤彬恵（川西湖山病院）長谷部まゆみ、大淵愛（最上町立最上病院）岸奈美、田室貴規（順仁堂遊佐病院）信夫松子（真室川町立病院）井上典子（みゆき会病院）川井ひろみ（町立金山診療所）長岡由美*（寒河江市立病院）渡邊ひろみ*、天野真由美*

*来学

大学：前田邦彦、沼澤さとみ、菅原京子、鈴木育子、菊地圭子、高橋直美、斎藤愛依、佐藤志保
佐藤敦宏

【概要】

○学長挨拶

今年度の地元ナース事業において、何とか事業を終了できたことを、協力病院の関係者の皆様に感謝します。今年度は新型コロナウイルスのパンデミックにより、協力病院の皆様も大変ご苦労されたと拝察します。本事業としては、ほぼ例年並みに事業を行うことができたのではないかと考えています。文部科学省の補助事業の頃から、ICTの活用を図ることを目標に挙げ、取り組んできた成果が、このような形で現れたのではないかと考えています。今日もこのようリモートで会議を開くことができるということは、数年前まで考えることもできませんでした。そういう意味では、本事業の意義があったのではないかと考えています。また、昨年9月には、日本科学学会の健康・生活科学委員会看護学分科会の「地元創成の実現に向けた看護学と社会との協働の推進」という報告書の中にも、地元ナース事業を取り上げていただきました。このように本事業は僅かずつではありますが、本年度も進展しています。

皆様より、忌憚のないご意見、ご助言などを頂き、次年度の事業に活かしていきたいと思っております。

○意見交換

1. 小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム

（協力病院から）

- ・プログラム参加の目的は、新人指導に役立つ知識の習得と自己研鑽であった。より深い学びを得ることができ、自分の病院や病棟では経験できないようなことも学ぶことができた。
- ・興味があったのは地域連携で、これまで他の職種の仕事内容などはあまり知らなかったが、専門の方の講義を受けて、どのような仕事をしているか詳しく聞くことができた。職場に戻ってからも、他の業種に対して見方が変わった。今までよりもスムーズに関わることが出来るようになった。
- ・看護研究は大変だったが、自己流でやっているところがあったので、参考になって良かった。
- ・地域密着連携の科目の参加者から、地域包括ケアシステムの現状と課題について再確認できたと報告があった。また、ファシリテーションについて学んだり、グループワークを行って、自身のス

キルアップにつながったと聞いている。多職種連携に活かしていきたいと熱い報告を受け、よかったと感じている。

- ・地域包括ケアについてよく理解できた、と報告があった。スタッフレベルの看護師は、看護協会での地域包括ケアに関する研修を受ける機会があまりなく、理解できていない部分があった。病院の中にとると、地域包括ケアシステムについて理解しにくいのかと感じていた。根拠に基づく看護では、これまでも現場で実践してきたと思うが、あらためて学ぶ機会になってとても良かった、と報告があった。

(大学の担当者より)

- ・ブラッシュアッププログラムの内容を、より現場色を強くしてみた。これまでは学内の教員が担当していたが、今回は現場のリハビリ職（理学療法士）に依頼し、実際にどのような活動をしているのか、というあたりを織り交ぜながら話をしてもらった。ファシリテーションについては、医療職ではない方から担当してもらった。このようなことが学びたいなどといった要望を随時受け付けているので、申し出て頂きたい。
- ・小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムは、地元ナース養成プログラムの時から履修証明プログラムとあって、学校教育法第 105 条に紐づき、履歴書に受講したことを記載できるものである。また、昨年度申請し、職業実践力育成プログラムとしても認定されている。全国様々な大学で行っているが、本学で始めたのは、全国でも早い時期である。文部科学省でも、そういうことを勧めているプログラムであることを、特に事務職などに伝えていただきたい。ここにお集りの看護管理者の方に、他の病院にもお勧めして頂けるとありがたい。

2. フォローアップ研修

(協力病院より)

- ・研修に参加して、中堅看護師を対象にフィジカルアセスメントについての研修会を企画し実施した。このような研修は、これまで新人看護師を対象に研修会を行ってきた。中堅世代の看護師には、これまでシミュレーターに触れた経験がないという人がかなり多かった。そこで、シミュレーターを使った研修会を開催したところ、良い反応をもらった。自施設で研修会を開催することが出来良かった。かなり有意義な内容の研修会を行うことができた。

(大学の担当者より)

- ・ブラッシュアッププログラムで長い時間大学の研修に出し、次年度もまた研修となると出しにくいような、負担になっている部分はあるか。

(協力病院より)

- ・他との研修と重なって参加者を出すことに迷うところはあったが、学んでほしいというところがあったのと、他のスタッフの協力も得ながら研修に出した。出来るだけ、続けてやっていくことが力になると思うので、ブラッシュアッププログラムと重ならないように組んでもらえると助かる。
- ・日程的に他の研修に重ならなければ、参加させることができる。
- ・リカレント教育にこれまで受講者を出してきたが、対象となる職員がいなくなっているという現状がある。中堅職員を出して指導力を高めてもらいたいという目的であったが、既に参加している。次の世代を参加させようと思っても、レベルが高くて参加できない状況にある。他の病院では、どのような層の人を育成しているかわからないが、このような病院の現状があるので、もう少しレベルを考慮したプログラムを検討していただきたい。

- ・これから現場を担ってってもらいたい職員を対象に声掛けし、本人の希望を聞き参加させている。ブラッシュアッププログラムには参加するが、フォローアップ研修には参加を希望しない。本当は参加させたいが、他の病院ではどのようにして動機づけしているのか知りたい。対象者に聞くと「看護研究の課題を持っていないので、参加できない」といった声が聞かれる。
- ・ブラッシュアッププログラムには、対象となる看護職はだいたい参加した。その後続くプログラムとしてフォローアップ研修があると思うが、意図が明確にわからない。
- ・研修の企画や研究について良いとは思いますが、病院内で完結してしまい行き詰まっているようにも感じる。新しく入ってくる職員がおらずほぼ全員中堅で、皆分かっているというところもあるので、ステップアップできるような内容だと良いと思う。看護研究については続けて行ってきたいと考えている。
- ・フォローアップ研修をフルに受けなくてもよいような形ではどうか。
- ・単発で受講できるような内容だと参加しやすい。
- ・どの程度のレベルの職員が対象か、もう少しわかりやすくしてもらいたい。
- ・もっと ICT を活用して、職員が出勤しつつ、研修の時間だけ参加できるような形だと参加しやすい。
- ・地域密着連携や根拠に基づく看護など参加してもらいたい内容ではあるが、大学までの移動の時間やコロナのことがあり無理をしないという方針で、今年度は受講者がいなかった。eラーニングのような研修が増え、対面での研修が減っている現状があるので、大学の研修もハイブリッドな形で参加できるようにしてもらえるとよい。
- ・自施設では、研究に対してハードルが高いと感じているようだ。もう少し学んでみたいな、というような内容してもらえると良いと思う。

○相互交流

(協力病院より)

- ・大学教育における看護学実習について興味を持って臨んだ。実際に実習を受け入れた経験のある施設の方の話聞くことが出来た。自施設は看護専門学校の実習を受け入れているが、大学の実習とは少し違うということが分かった。今後自分達の担っている実習に活かしていきたいと思う。
- ・学生が実際どのような授業を受けているのか、シミュレーターを動かしてみたり、講義に参加したりして、知ることができた。
- ・自施設でフォローアップ研修を受けた看護師が、院内でシミュレーターを使用した研修会を開いてくれた。中堅看護師はシミュレーターを使用した経験がないので、シミュレーターを活用した研修を受けることができれば、実践能力の向上につながると思った。
- ・自施設では、実習の受け入れを行っていないが、いずれは受け入れを考えている。実習でどのように学生に関わっているのか、実習を見学させていただいた職員から、すごく勉強になったと聞いている。やはり実際に見学するということは、学びの深さが違うと感じた。
- ・新卒の看護師は数年来入職していないが、職員の教育背景をみても全く違うので、どのような教育を今受けているのか知ったうえで指導に関わってもらいたいと考えている。どんな状況で入職してくるのかわからずして指導はできないと考え、相互交流に参加させている。そのようなことが学べるプログラムになっていけば良いと思う。

(大学の担当者より)

- ・次年度もコロナ禍により、実習への参加はどうかかわからないが、まずは学内で行うことができる内容を取り入れていきたい。

3. J ナースカフェ

(協力病院より)

- ・リラックスした感じで楽しく交流させていただいた。
- ・現在コロナ禍によって患者と家族が自由に面会できない状況で、他の病院ではどのような工夫をしているのか、情報交換が出来たらよいと思っている。
- ・Zoom で参加したが、自分の病院にいなながら参加できたので、緊張せずに話が出来た。それぞれの病院のコロナ対策について、いろいろ聞くことができ良い機会になった。
- ・コロナの対応について、同じような規模の病院同士で意見交換ができたのが大変良かった。実際の事例を聞いて早速取り入れたり、ここまで対応を整えているから焦らなくてもよい、というように確認することが出来た。
- ・久しぶりに会って嬉しかった、という声があった。リモートでの参加は、勤務時間中でも短時間で準備して参加でき、修了後はすぐに勤務に戻ることができる。管理者としても時期によっては参加させるのに不安があるが、リモートだと安心して参加させられる、ということでたいへん良い企画であったと思う。
- ・距離的な問題があって、なかなか参加できない状況がある。ICT をもっと活用してもらえると良い。
- ・J ナースカフェ、興味はあったがなかなか参加者がいなかった。今回話を聞いて、すぐに現場に役立つような情報が得られる、タイムリーなテーマで意見交換ができるよい機会であることを知ったので、次年度からは参加者を増やしていきたい。
- ・J ナースカフェがリモートになれば参加しやすい。リフレッシュにつながるようなので、リモートであれば参加させたい。

4. その他

(協力病院より)

- ・相互交流で外部から人が入り、評価されることで職員のモチベーションが上がった。これからもコロナ禍で人の行き来が制限されるので、形を変えていかないと実施が難しいと考えられる。Zoom を活用し、授業に参加するのは可能なのか、今後も教育現場とつながっていくことを希望する。
- ・大学からの音声が聞き取りにくくなるようだ。病院側でも、オンラインがスムーズにいくような機器を取り入れている。資料をめくる音が混入したり、音がこもるような時がある。自分達では気づかない音響の不具合があるかもしれない。お互いに伝え合わないと改善されない。今後 ICT を推進していくためにも、環境の整備は必須と考える。

(大学より)

- ・ICT を活用することで参加しやすくなったり、ざっくばらんに話ができたり、良い状況もあった。大学の敷居が低くなって、皆さんから大学に入ってきていただけるのは大変良いこと。

部会名【 看護教員養成講習会部会 】
委員名 遠藤和子
2020 年度 【実績と課題】
○看護教員養成講習会
<実績>
<p>予定通り、令和2年5月10日に開講し、令和3年2月19日に閉講式を行った。</p> <p>受講生は、14名(県内8名、宮城県3名、秋田県、岩手県、福島県各1名)</p> <p>e-ラーニングも活用しつつ、講義・演習、実習も計画通りに進行した。</p> <p>実習は、県内6か所の看護専門学校の協力を得て実施した。</p> <p>研修期間中は、感染対策と健康管理に努め、COVIT19の感染者も無く経過し、受講者14名、全員が修了認定された。</p> <p>講習会の評価は、企画運営会議にて行った。講習会の目的、目標、内容、方法、講師、教材の適切さ、講習の開催時期、時間、場所、経費の適切さについて検討したところ、特に問題なく、受講生の看護教員としての能力の習得の自己評価ですべての項目が6割以上の達成であったことから、十分な成果を上げたと評価している。</p>
<課題>
<ul style="list-style-type: none"> ・今回の講習会開催に当り工夫した点や調整に手間取った内容など、次回に活かしたい内容もあるものの、事務局が県に移管され、本講習会が継続した開催とならないため、実践知が蓄積されない。引き継ぎが難しく工夫を要する。 ・教員として養成された受講生の経過を追えていないため、本講習会の実施が質の高い教員の養成にどのように貢献しているかを確認することができていない。

部会名【教育力向上部会】
委員名 安保寛明 槌谷由美子 山田香 今野浩之 佐藤志保
2020年度 実績と課題
<p>○看護研究相談支援</p> <p><実績></p> <p>県内の医療機関、小規模病院などを対象として、看護研究相談支援を継続して実施した。今年度からは研究相談に対する窓口を設定して学内教員を紹介する形式で行った。</p> <p>今年度は3医療機関から研究相談があり、このうち2医療機関において研究活動に対する助言を行った。このうち2医療機関では院内での研究発表会における発表が行われた。(1医療機関はコロナウイルス感染者の国内での拡大から発表会自体が中止になった)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの医療機関において研究発表会は年度で行われる傾向があるため、時期と内容に一定の傾向が見受けられる。これまでの傾向を整理して、研究活動に対する支援を相談型と講義(研修)型に適した内容に整理することが効果を高めると思われる。 <p>○看護教育力向上</p> <p><実績></p> <p>看護教育に従事する人を対象として、大学内の研究資源(Seeds)と研究活動に対する希望や要望(Needs)の交流を行うための交流会を開催した現地と遠隔あわせて4名の参加があった。また、教育力向上のための研修会を行い、現地にて4名の参加があった。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関における現任者教育や、看護学校等における卒前教育の状況に合わせた研修会を今後も企画する必要がある。

部会名【地域連携推進部】
委員名 後藤順子 平石智子 丸山香織 佐藤千穂 佐藤志保
<p>【2020 年度】</p> <p>実績と課題</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症のために、看護師体験セミナー及び地域医療体験セミナーは開催を中止した。 ・県の受託事業の母子保健コーディネーター研修会は、11月27日に県からの動向等の説明とワールドカフェ(37名参加)、12月23日 Zoom を用いた実践報告(57名参加)を実施した。 ・卒業生支援のためのホームカミングデイは、対面では困難であったために卒業生の協力を得て学内の教員が協力して Web 配信した。 ・広報については、地元ナース事業担当が担当した。 ・4月の公開新人看護師研修は Covid-19 感染対策のために中止したが、2月の本学学生向けインターンシップは感染対策を講じて実施し 10名の学生が参加した。また、令和元年度に行った病院看護師と本学教員の研究を Web 開催の学会で発表した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の事業のあり方について、目的達成に向けて、実施方法等を検討していく。 ・広報(センター報・ホームページ)は事業推進と連携を取り合う

令和2年度 看護実践研究センター運営委員会名簿

氏名	職名
菅原京子	看護実践研究センター長：地元ナース事業推進部会長
沼澤さとみ	特定行為研修部会
遠藤恵子	
後藤順子	地域連携推進部会長
遠藤和子	看護教員養成講習会部会長
安保寛明	教育力向上部会長
平石皆子	地域連携推進部会
鈴木育子	地元ナース事業推進部会
菊地圭子	地元ナース事業推進部会
半田直子	特定行為研修部会長
高橋直美	地元ナース事業推進部会
槌谷由美子	教育力向上部会
山田香	教育力向上部会
今野浩之	教育力向上部会
齋藤愛依	地元ナース事業推進部会
渡邊礼子	教育力向上部会
栗田敦子	特定行為研修部会
佐藤千穂	地域連携推進部会
佐藤志保	地元ナース事業推進部会、特定行為研修部会、教育力向上部会 地域連携推進部会

資料

山形県立保健医療大学看護実践研究センター運営要綱

制定 平成 27 年 6 月 4 日

改正 平成 29 年 4 月 1 日

平成 31 年 4 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、山形県立保健医療大学看護実践研究センター運営規程（平成 26 年規程第 18 号）第 6 条の規定に基づき、山形県立保健医療大学看護実践研究センター（以下「実践センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(運営委員会の構成等)

第 2 条 運営委員会は、看護実践研究センター長（以下「実践センター長」という。）及び学長が指名した教職員で構成する。

- 2 運営委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の中から学長が指名する。
- 3 第 1 項の委員のうち、学長が指名する委員の任期は 2 年とする。ただし、補欠の委員として指名された委員の任期は前任者の残任期間とする。
- 4 学長は必要があると認める場合は、第 1 項の委員の他に教職員の中からオブザーバーを指名することができる。

(運営委員会の審議事項)

第 3 条 運営委員会は次の事項を審議する。

- (1) 看護実践研究センターの活動計画に関する事
- (2) 実践センターの予算・決算に関する事
- (3) 実践センターの評価に関する事
- (4) 実践センターと学内委員会等との調整に関する事
- (5) その他実践センターに関する重要事項に関する事

(運営委員会の会議)

第 4 条 委員長は運営委員会の会議（以下「会議」という。）を招集し、その議長となる。

- 2 会議は委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 会議の議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。
- 4 会議には、必要に応じ委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(部会)

第5条 実施センターに次の部会を置く。

(1) 地元ナース事業部会

- イ 小規模病院等看護職リカレント教育及び相互交流に関すること
- ロ 学士教育課程との連携に関すること
- ハ 協力病院会議に関すること
- ニ 地元ナース懇談会に関すること
- ホ Jナースカフェ支援に関すること

(2) 特定行為研修部会

- イ 特定行為研修ニーズ及び指定研修機関に関する調査研究に関すること

(3) 看護教員養成講習会部会

- イ 看護教員養成講習会受託事業に関すること

(4) 教育力向上部会

- イ 小規模病院等看護研究指導に関すること
- ロ シミュレーション教育に関すること
- ハ 模擬患者派遣相談に関すること
- ニ 看護専門学校教員との共同研究に関すること

(5) 地域連携推進部会

- イ 高校1年生セミナーに関すること
- ロ 卒業生支援（ホームカミングデー）に関すること
- ハ 県立中央病院との連携に関すること
- ニ 実践センターの広報に関すること
- ホ ICT整備に関すること

2 前項各号の部会の構成員は、実践センター長が指名するものとし、うち1名を部会長に指名する。

3 各部会の会議は定期的に部会長が招集するものとする。

(部会長会議)

第6条 実践センター長は、必要に応じ各部会長で構成する部会長会議を開催するものとする。

2 部会長会議では、各部会における実施状況の報告や各部会間の調整事項等について協議する。

(庶務)

第7条 運営委員会の庶務は、実践センターにおいて処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の実施について必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成27年6月4日から施行する。
- 2 山形県立保健医療大学看護実践研究センター委員会要綱（平成27年2月3日制定）は廃止する。
- 3 第6条第1項の各部会のメンバーについては、「山形発・地元ナース養成プログラム事業」の助成期間にあつては、それぞれ同事業における「リカレント教育チーム」、「看護研究相談・支援チーム」及び「ICT活用チーム」のメンバーとし、部会長は同チームリーダーを充てるものとする。

附 則

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成31年4月1日改正）

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

山形県立保健医療大学看護実践研究センター運営規程

平成 26 年 10 月 31 日

規程 第 18 号

改正 平成 31 年 4 月 1 日規程第 4 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人山形県立保健医療大学の組織及び運営に関する規則（平成 21 年規則第 1 号）第 7 条第 2 項の規定に基づき、山形県立保健医療大学看護実践研究センター（以下「実践センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 実践センターは、県内の看護職を対象に看護継続教育、研究指導、情報発信等を行うことにより、本県における看護実践水準の向上を図ることを目的とする。

(業務)

第 3 条 実践センターは、その目的を達成するために、次に掲げる業務を行う。

- (1) 看護職を対象とした実習指導力養成教育
- (2) 看護職を対象とした実践力向上のためのフォローアップ教育
- (3) 看護研究に関する相談・指導等の支援
- (4) 看護実践・研究に関する情報発信
- (5) その他実践センター長が適当と認めた業務

(職員)

第 4 条 実践センターに、実践センター長、兼任職員及び必要な職員を置く。

- 2 実践センター長は、看護学科教員の中から理事長が任命する。
- 3 実践センター長は、第 3 条各号に定める業務について掌理する。
- 4 実践センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- 5 実践センター長が任期満了前に辞任し、又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 6 兼任職員は、看護学科教員及び事務局職員をもって充てるものとする。

(実践センター委員会等)

第5条 実践センターの円滑な運営を図るため、実践センターに運営委員会を置く。

- 2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。
- 3 実践センターに部会を置くことができる。

(委任)

第6条 この規程に定めるもののほか、実践センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

この規程は、平成26年11月1日から施行する。

附 則 (平成31年4月1日改正)

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

○協力病院・施設

令和3年2月現在

病院等名	所在地	病床数	主な診療科
公立高畠病院	高畠町大字高畠 386	130	内・外・整形・婦・小
最上町立最上病院	最上町向町 64-3	70	内・外・整形・婦・眼
川西湖山病院	川西町大字下奥田 3796-20	109	内・整形・
小国町立病院	小国町あけぼの一丁目 1	55	内・外・整形・婦・小
特別養護老人ホームはとみね荘	高畠町大字高畠 303		
順仁堂遊佐病院	遊佐町遊佐字石田 7	84	内・外・小・婦・リハ
町立真室川病院	真室川町大字新町 469-1	55	内・整形・耳鼻
尾花沢病院	尾花沢町大字朧気 695-3	152	内・消・精内・心内・リハ
山形県立こころの医療センター	鶴岡市茅原字草見鶴 51-1	213	精・心内・自動・思春期精神
みゆき会病院	上山市弁天二丁目 8-11	183	内・整形・小・歯・放
寒河江市立病院	寒河江市大字寒河江字塩水 80	125	内・整形・外・眼・皮
町立金山診療所	金山町金山 548-2	19	内・外・小
矢吹病院	山形市嶋北四丁目 5-5	40	内・外・腎臓内科・放・消

○協力病院の位置づけ

内容	協力病院等	以外
リカレント教育企画参画	○	—
リカレント教育受講	○	○
ICT活用・アクセス環境の確認	○	—
ICT活用	○	○
大学との相互交流	○	—

令和元年度地元ナース懇談会委員

(敬称略)

氏名	所属及び役職
酒井 雅彦	山形県健康福祉部地域医療対策課長
山川 祐美子	山形県看護協会常任理事
山田 敬子	山形県置賜保健所所長
佐藤 里沙	順仁堂遊佐病院 看護師長
富樫 栄一	元東北公益文科大学事務局長
石沢 美嘉	山形県健康福祉部地域医療対策課医師・看護師確保対策室

令和2年度地元ナース懇談会委員

(敬称略)

氏名	所属及び役職
丸子 尚	山形県健康福祉部地域医療政策課長
山川 祐美子	山形県看護協会常任理事
山田 敬子	山形県置賜保健所所長
佐竹 真奈	医療法人社団緑愛会川西湖山病院 看護師
富樫 栄一	元東北公益文科大学事務局長
金山 千佳子	山形県健康福祉部地域医療政策課地域医療支援室

看護実践研究センター

令和1・2年度 活動報告書

令和3年9月発刊

発行 公立大学法人山形県立保健医療大学 看護実践研究センター

〒990-2212 山形県山形市上柳 260 番地

TEL・FAX 023-686-6614